

令和2年度
広島県立美術館年報



目 次

I	沿革	2
II	展覧会	
	展覧会一覧	5
	特別展	
	1 生誕135年記念 川端龍子展－衝撃の日本画	6
	2 日常の光－写し出された広島	10
	3 ヨーロッパの宝石箱 リヒテンシュタイン侯爵家の至宝展	12
	4 浦上コレクション 北斎漫画－驚異の眼・驚異の筆－	17
	5 第67回日本伝統工芸展	20
	所蔵作品展	24
III	普及活動	
	1 第8回新県美展（第72回広島県美術展）	36
	2 博物館実習	37
	3 学校・地域との連携事業	39
	4 鑑賞支援制作物	40
	5 学校等による利用状況	41
	6 県民ギャラリー利用状況	42
	7 友の会事業報告	44
IV	事業実施状況	46
	1 広島県立美術館における新型コロナウイルス の影響と対策、情報発信について	51
V	業務一覧	58
VI	入館者数一覧	66
VII	美術品等収集状況	68
VIII	美術品等の貸出し	69
IX	関係法規	70
X	名簿	79

I 沿革

昭和31年	美術館建設の募金運動はじまる	昭和52年 2月	広島県美術展開催運営規則施行(昭和52年広島県教育委員会規則第2号)
昭和38年 4月	調査費計上	昭和53年 10月	開館10周年記念展開催
昭和39年 4月	設計委託料計上	昭和54年 3月	開館10周年記念「広島県立美術館所蔵作品集」発刊
10月	建設促進委員会開催	12月	収蔵庫拡張工事着工
昭和40年 4月	整地費など計上	昭和55年 2月	収蔵庫拡張工事完了
昭和41年 5月	文部省社会教育施設整備費補助金の交付内定	4月	定宗一宏館長(非常勤)任命
12月	建設募金委員会発足	10月	広島県立美術館条例一部改正(昭和55年広島県条例第19号)施設使用料
昭和42年 1月	起工式挙行	昭和56年 4月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭和55年広島県教育委員会規則第10号)
昭和43年 3月	旧館竣工	4月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭和56年広島県教育委員会規則第5号)課の名称変更・入館料の免除
4月	広島県立美術館条例施行(昭和43年広島県条例第20号)	10月	広島県立美術館美術品等取得基金条例施行(昭和56年広島県条例第5号 基金額1億円)
	広島県立美術館管理運営規則施行(昭和43年広島県教育委員会規則第1号)	昭和57年 3月	定宗館長辞職
	加藤豊館長(常勤)任命	4月	広島県立美術館条例一部改正(昭和57年広島県条例第10号)入館料・施設使用料
6月	広島県立美術館協議会条例施行(昭和43年広島県条例第38号)	9月	縮景園窓口入園窓口を設置
7月	広島県立美術館協会結成	昭和60年 3月	阿川館長辞職
9月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭和43年広島県教育委員会規則第13号)分掌事務	4月	赤木博典館長(常勤)任命
21日	落成式挙行	昭和61年 10月	事務局職員による県立美術館整備計画検討会議を設置
22日	旧館開館	昭和62年 2月	渋谷文庫開設
10月	広島県立美術館美術品収集要領制定	3月	県立美術館整備計画検討会議、整備構想案をまとめる
12月	広島県立美術館展示施設運営要領制定	4月	赤木館長辞職
昭和44年 4月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭和44年広島県教育委員会規則第2号)職員の職・職員の職務	11月	吉岡典威館長(兼務)任命
	館蔵品常設展開設	県教育委員会、広島県立美術館整備構想検討委員会を設置、委員8名を委嘱	
昭和46年 4月	宮地貫一館長事務取扱任命	昭和63年 4月	菅川健二館長(兼務)任命
昭和47年 1月	広島県立美術館友の会発足	4月	広島県立美術館条例一部改正(昭和63年広島県条例第7号)入館料・施設使用料
5月	浜本正弘館長事務取扱任命	11月	広島県立美術館美術品等取得基金、1億円を増額(基金額2億円)
6月	佐々木司郎館長事務取扱任命	平成元年 3月	さところ文庫開設
8月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭和47年広島県教育委員会規則第11号)職員の職	5月	広島県立美術館整備基本計画検討委員会を設置、委員18名を委嘱(座長 橋口収 県商工会議所連合会会長)
11月	羽白幸雄館長(非常勤)任命	7月	広島県立美術館美術品等収集評価委員会を設置、委員6名を委嘱
昭和48年 6月	開館5周年記念「広島県立美術館所蔵作品集」発刊	平成2年 3月	「広島県立美術館所蔵作品図録」発刊
6月	広島県立美術館条例一部改正(昭和48年広島県条例第30号)	4月	広島県立美術館美術品など取得基金、5億円を増額(基金額7億円)
	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭和48年広島県教育委員会規則第14号)補助職員の職及び職務		
10月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭和48年広島県教育委員会規則第19号)職員の職等		
昭和49年 3月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭和49年広島県教育委員会規則第4号)その他の職員の職		
昭和50年 4月	広島県立美術館条例一部改正(昭和50年広島県条例第25号)施設使用料		
昭和51年 4月	広島県立美術館条例一部改正(昭和51年広島県条例第9号)入館料		

12月 知事、県議会本会議において「新美術館は隣接する縮景園の景観を損なうことなく、両施設の一体化を図った文化ゾーンの一環として一体的に整備する必要がある」と答弁

平成3年 2月 知事、県議会本会議において「基金設計に着手する」ことを提案

3月 県議会、平成3年度予算案(基本設計予算)を可決

4月 広島県立美術館整備基本計画をまとめる
美術品等特別収集に着手
広島県立美術館美術品等取得基金、3億円を増額(基金額10億円)

平成4年 7月 施設利用業務休止。館藏品常設展示室休室
9月 閉館記念式典挙行
10月 事務所を広島市西区観音新町四丁目9-43に移転、仮事務所とする
旧県立図書館及び旧県立美術館の解体工事に着手
広島県立美術館美術品等取得基金、10億円を増額(基金額20億円)

平成5年 3月 解体工事、整地完了
新館建設工事安全祈願祭が挙行され、工事に着手

4月 久保信保館長(兼務)任命
12月 寺脇研館長(兼務)任命
広島県立美術館美術品等取得基金、10億円を増額(基金額30億円)

平成6年 5月 事務所を西区観音新町から広島市中区八丁堀3-2職会館(2階)に移転
広島県立美術館美術品等取得基金、10億円を増額(基金額40億円)

平成7年 4月 常廣泰登館長(専任)任命
広島県立美術館美術品等取得基金、5億円を増額(基金額45億円)

12月 新館竣工
新館鍵引渡し式を挙行

平成8年 1月 事務所を新館に移転

4月 1日 木曾功館長(兼務)就任
7月 1日 平山郁夫名誉館長就任
5日 広島県立美術館条例施行(平成8年 広島県条例第16号)入館料・施設使用料
22日 広島県立美術館管理運営規則一部改定(平成8年 広島県教育委員会規則第9号)施設使用料

10月 1日 「広島県立美術館コレクション選」発刊
5日 新館開館記念式挙行
6日 新館開館
広島県立美術館美術品等取得基金、5億円を増額(基金額50億円)

平成9年 3月 26日 広島県立美術館条例施行(平成9年 広島県条例第3号)入館料・施設使用料
4月 1日 広島県立美術館管理運営規則(平成9年 広島県教育委員会規則第6号)全面改定

平成10年 3月 24日 広島県立美術館条例施行(平成10年 広島県条例第5号)入館料等の納付
広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成10年 広島県教育委員会規則第4号)

7月 1日 辰野裕一館長(兼務)就任

平成12年 2月 1日 広島県立美術館美術品等収集評価委員会設置要領一部改正

平成13年 3月 26日 広島県博物館協議会条例施行(平成13年 広島県条例第3号)広島県美術館協議会条例廃止

29日 広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成12年 広島県教育委員会規則第5号)入館料等の減免

7月 10日 常盤豊館長(兼務)就任

10月 22日 広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成13年 広島県教育委員会規則第7号)入館料の減免

12月 20日 平山郁夫名誉館長辞任

平成14年 3月 25日 広島県立美術館条例一部改正(平成14年 広島県条例第18号)小・中・高校生の無料化

4月 1日 広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成14年 広島県教育委員会規則第10号)開館時間の変更

平成16年 7月 1日 関靖直館長(兼務)就任

平成17年 12月 20日 広島県立美術館条例一部改正(平成17年 広島県条例第57号)展示施設等の利用許可の条件、取消し等及び制限
広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成17年 広島県教育委員会規則第16号)開館時間表記の改正及び条例改正に伴う改正

平成19年 4月 1日 榎田好一館長(兼務)就任
6月 18日 広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成19年 広島県教育委員会規則第9号)休館日の変更及び条例改正に伴う改正
12月 25日 広島県立美術館条例一部改正(平成19年 広島県条例第56号)学校教育法等の一部改正に伴う改正

平成20年 4月 1日 指定管理者制度導入

平成21年 4月 1日 所管先が広島県教育委員会生涯学習部文化課から広島県環境県民局総務管理部文化芸術課へ移行
広島県立美術館の入館料に関する規則施行(平成21年 広島県規則第33号)
広島県美術展開催運営規則(平成21年 広島県規則第34号)
藤田雄山館長(兼務)就任

平成21年 12月 1日 平田光章館長(兼務)就任

平成22年 4月 1日 抹香尊文館長(兼務)就任

平成22年 6月 1日 広島県美術品等取得基金条例を廃止する条例の施行(平成22年 広島県条例第22号)
6月 28日 広島県立美術館条例一部改正(平成22年 広島県条例第31号)施設使用料額の下限撤廃に伴う改正

平成23年 4月 1日 越智裕二郎館長就任
6月 29日 広島県立美術館評価委員会設置
7月 11日 広島県立美術館条例一部改正(平成23年 広島県条例第31号)指定管理者による管理、入館料の納付等および減免、利用料金の納付等・減免及び収入

平成24年 4月 1日 広島県立美術館の入特別展の観覧に係る入館料に関する規則一部改正(平成24 広島県規則第38号)

- 平成25年 2月 18日 広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成25年 教育委員会規則第1号)講堂の利用申込期間の変更
- 3月 14日 広島県立美術館の特別展の観覧に係る入館料に関する規則一部改正(平成25年 広島県規則第13号) 広島県立美術館条例一部改正に伴う改正
- 平成26年 3月 26日 広島県立美術館条例施行(平成26年 広島県条例第17号、第23号)入館料・施設使用料及び開館時間
- 平成27年 3月 16日 広島県立美術館条例一部改正(平成27年 広島県条例第3号)展示施設等の利用料金の減免
- 4月 1日 千足伸行館長就任
- 平成28年 3月 22日 広島県立美術館条例一部改正(平成28年 広島県条例第7号)入館料・利用料金の減免、所蔵作品展の利用料金の範囲
- 10月 12日 広島県立美術館条例一部改正(平成28年 広島県条例第47号)指定管理による管理、入館料の納付等、利用料金の納付等、入館料の減免、利用料金の減免、利用料金の収入
- 平成29年 3月 23日 広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成29年 教育委員会規則第1号)利用料金の減免、利用料金の減免の申請
- 3月 31日 広島県立美術館の入館料に関する規則一部改正(平成29年広島県規則第16号)入館料の免除
- 平成31年 3月 8日 広島県立美術館条例一部改正(平成31年 広島県条例第5号)利用料金の範囲
- 令和2年 3月 7日 新型コロナウイルス感染拡大防止のために臨時休館(同日午後から令和2年5月11日まで)

Ⅱ 展覧会

展覧会一覧

令和2年4月1日～令和3年3月31日までに開会した展覧会は、次の通り。なお、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い「第8回新県美展」は中止し、「藤子不二雄[Ⓐ]展－[Ⓐ]の変コレクション－」は次年度に延期し、「日常の光－写し出された広島」及び「前衛陶芸集団『走沼社』の時代」を開催した。

特別展

展 覧 会 名		会 期
1	生誕135年記念 川端龍子展 －衝撃の日本画	4月2日（木）～5月31日（日） ※新型コロナウイルス感染拡大防止のために会期を変更 臨時休館：4月2日（木）～5月11日（月） 会期延長：～6月21日（日）
2	日常の光 －写し出された広島	7月23日（木・祝）～8月23日（日）
3	ヨーロッパの宝石箱 リヒテンシュタイン侯爵家の至宝展	9月18日（金）～11月29日（日）
4	浦上コレクション 北斎漫画 －驚異の眼・驚異の筆－	12月10日（木）～1月31日（日）
5	第67回日本伝統工芸展	2月17日（水）～3月7日（日）

所蔵作品展

展 覧 会 名		会 期
1	夏の所蔵作品展 サマーミュージアム 戦後75年特集	7月23日（木・祝）～9月27日（日）
	前衛陶芸集団「走泥社」の時代	7月23日（木・祝）～8月23日（日）
2	秋の所蔵作品展 名品アラカルト	10月1日（木）～12月24日（木）
3	冬の所蔵作品展 新収蔵作品を中心に	1月2日（土）～4月11日（日） ※知事同盟サミット開催に伴う会期延長：～4月25日（日）

1 生誕135年記念 川端龍子展 ー衝撃の日本画

会 期／令和2(2020)年5月12日(火)～6月21日(日)
※月曜日休館

主 催／広島県立美術館、広島テレビ、イズミテクノ、
中国新聞社

後 援／中国放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島、
広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、
エフエムふくやま、尾道エフエム放送、
FMはつかいち76.1MHz、FM東広島89.7MHz

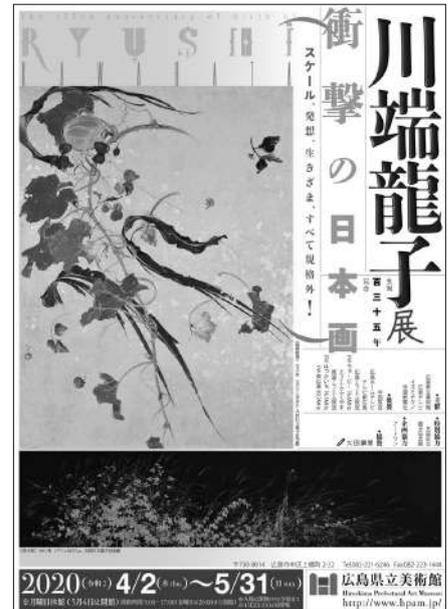
協 賛／大田鋼管、広島県信用組合、
一般財団法人ケンシン地域振興財団

特別協力／大田区立龍子記念館

企画協力／アートワン

入 館 料／一 般1,300(1,100)円
高・大学生1,000(800)円
小・中学生 600(400)円
※()内は前売・20人以上の団体料金

入館者数／8,361人(36日間)



「昭和の狩野永徳」と評され、横山大観・川合玉堂とともに「近代日本画の3巨匠」の一人に数えられる日本画家・川端龍子(1885-1966)。日本美術院で若手のホープとして活躍したが、脱退。「健剛なる芸術」の創造を目指した日本画団体・青龍社を旗揚げし、それまでの日本画にはなかった規格外の大作を次々と発表しセンセーションを巻き起こした。川端龍子の生誕135年を記念した本展では、大田区立龍子記念館による全面協力のもと、水野美術館(長野県)と連携して、龍子の画業を代表する大作約50点の他、挿絵や装丁本、書や俳句等を加え、50年以上にわたった龍子の画業全体を回顧した。

なお、本展は本来、令和2年4月2日～5月31日を会期としていたが、新型コロナウイルスの影響による臨時休館のため、会期を大幅にずらしての開幕となった(関連イベントは全て中止)。閉館中は、初の試みとして「エア美術館」と題したオンラインによる展覧会紹介を実施。会期変更に際しては、所蔵者を始めとして、多くの方々の協力を得た。開幕後は、図録が完売するほどの盛況がみられた他、美術館が開館し、展覧会を見ることが出来る喜びの声がSNS上に多くみられた。

(本展担当者：神内 有理)

関連事業

- (1) 記念講演会「会場芸術ー川端龍子の魅力」(広島県立美術館友の会共催)→中止
日 時：4月11日(土) 13:30～15:00
講 師：木村 拓也(大田区立龍子記念館主任学芸員)
会 場：地階講堂

- (2) ワークショップ「龍子の技法体験ワークショップ-制作と鑑賞」→中止

作品《草の実》に使われている金泥技法を実際に描くことを通じて、龍子の考えた西洋と日本の違いについて学ぶ。

日 時：4月18日(土) 13:30~15:30

講 師：森山 知己(日本画家・倉敷芸術科学大学教授)

会 場：地階講堂

定 員：10名(中学生以上)

参加費：2,000円



- (3) 美術講座「川端龍子-衝撃の日本画」→中止

日 時：5月9日(土) 13:30~15:00

講 師：神内 有理(当館主任学芸員)

会 場：地階講堂

- (4) 学芸員によるギャラリートーク →全て中止

日 時：4月10日(金)、4月24日(金)、5月8日(金)、5月22日(金) 各日11:00~

会 場：3階企画展示室

- (5) 対話型鑑賞会 →中止

日 時：4月25日(土) 15:00~(1時間程度)

ナビゲーター：当館学芸員

会 場：3階企画展示室

- (6) 森本ケンタ×我龍「衝撃のロビーコンサート」→中止

日 時：4月5日(日) 12:00~

演奏者：森本ケンタ(ギター)×我龍(太鼓ユニット)

会 場：1階ロビー



- (7) 写真撮影コーナー →中止

- (8) インスタギャラリートーク

日 時：①6月11日(木) ②6月16日(火) ③6月18日(木) ④6月20日(土)

各日17:00~

講 師：①神内 有理(当館主任学芸員)

②③木村 拓也(大田区立龍子記念館主任学芸員)、神内 有理(当館主任学芸員)

④高田 紫帆(水野美術館学芸員)、神内 有理(当館主任学芸員)

※②③は当館と龍子記念館、④は当館と水野美術館をつないだコラボ配信



主要関連番組

- (1) テレビ
4/12 NHKアートシーン
- (2) ラジオ
5/21 FMふくやま
5/26 FM尾道
6/12 FMふくやま(中国新聞告知枠)



主要関連記事

- (1) 新聞
 - ・中国新聞
 - 5/2 開幕延期
 - 5/2 紙上展覧会①(寄稿)
 - 5/3 紙上展覧会②(寄稿)
 - 5/4 紙上展覧会③(寄稿)
 - 5/5 紙上展覧会④(寄稿)
 - 5/6 紙上展覧会⑤(寄稿)
 - 5/13 開幕
 - 5/13 天風録
 - 5/21 情報交差点
 - 6/5 事業ガイド
 - 6/11 特集
 - 6/11 ギャラリートーク生配信について



- ・毎日新聞
 - 4/30 寄稿
- ・日刊広島
 - 5/28

(2) 雑誌等掲載

『ウェンディ広島』2月号、『レジャシネ』1月11日～2月24日、『Cue 備後(おでかけガイド)』1月17日号、『ホットペッパー』2月号、『JAF』5月号、『Grande広島』春号、『Tj hiroshima』4月号、『県民だより』4号、『to-you』4月号、『アートコレクターズ』3月25日、『ホットペッパー』5月号(コロナのため掲載中止)、『Cue』3月20日号・4月10日号、『くれえばん』4月28日(コロナのため掲載中止)、『広島経済レポート』4月号、『広島県立美術館友の会会報 色絵馬』91号

(3) ウェブ

「アートアジェンダ」2月1日～、「マイフェバ」3月18日～、「アートエクスプレス」4月1日～、「ギャラリーガイドネット」4月1日～、「Walkerplus」3月下旬～、「青山デザインフォーラム」3月下旬～(※以後のWeb掲載はコロナのため提供中止)

(4) その他

- 3月号 ぐるまちリーフレット
- 4/26 広島交響楽団 パンフレット(コロナのため掲載中止)



写真撮影コーナー (中止)

- 4 / 2 エア美術館
- 4 / 4 エア美術館
- 4 / 10 エア美術館
- 4 / 12 エア美術館
- 4 / 13 エア美術館
- 4 / 14 エア美術館
- 4 / 15 エア美術館
- 4 / 17 エア美術館
- 4 / 18 エア美術館
- 4 / 19 エア美術館
- 4 / 20 エア美術館
- 4 / 23 エア美術館
- 4 / 24 エア美術館
- 4 / 26 エア美術館

202004-0621川端龍子展期間SNSまとめ



カタログ内容

ごあいさつ

- I 絵に生きる一洋画家・挿絵画家・美術教育者としての龍子
- II 鮮烈！日本美術院での躍進
- III 激動！青龍社一旗揚げから終戦まで
コラム 龍子解剖！
- IV 戦後を生きる－生命・祈り・旅を描く
- V 文化勲章受章，そして終焉へ

龍子記念館－追い求めた「会場芸術」の集大成(大田区立龍子記念館 木村拓也)

略年表

主要参考文献

出品目録

展覧会巡回先

水野美術館 令和2(2020)年7月23日(木・祝)～9月22日(火・祝)

2 日常の光 一写し出された広島

会 期／令和2(2020)年7月23日(木・祝)～8月23日(日)

※月曜日休室、8月10日(月)は開館

主 催／広島県立美術館

入 館 料／一 般510(410)円

大学生310(250)円

高校生以下無料〔所蔵作品展入場料にて鑑賞可能〕

※()内は20人以上の団体料金

入館者数／1,763人(29日間)

※同時開催 所蔵作品展「前衛陶芸集団「走泥社」の時代」



昭和20(1945)年、広島は原爆投下により焼け野原となり、その未曾有の状態を指して「75年間(70年間)は草木も生えぬ」と語られた。広島は戦後復興を果たすも、原爆投下による大きな傷跡は残り、国内外の写真家はこの都市で起きたことを記録に留めようとしてきた。そこには、原爆被害に迫る写真だけではなく、広島に住まう人々の何気ない、しかし、かけがえのない日常を捉えた写真も多く見られる。

本展は、本県出身の6人の写真家が撮影した広島の情景に焦点を当てたものである。松重美人(1913-2005)は被爆直後の罹災者を撮影することに躊躇しながらもカメラを向けた。明田弘司(1922-2015)は、戦後、温かな眼差しで広島の復興を記録に留めた。オリンピック選手であった高田静雄(1909-1963)は、原爆症を患ってからは、平和な日常を写すことに情熱を傾けた。迫幸一(1918-2010)は、郷土の風景や人々の営みを造形的な観点で捉え、国際的評価を受けた。藤岡亜弥(1972-)や笹岡啓子(1978-)は、体験し得ない、しかし潜在する原爆の記憶を、今日的な視点から表現しようとしている。戦後から現代へと移り変わる広島において、いかに6人の作家たちが日常の情景を写真という手法で留めようとしたかを紹介した。

なお、本展は新型コロナウイルスの感染拡大に伴って次年度に延期された「藤子不二雄[®]展－[®]の変コレクショナー」(当初予定会期：令和2年7月10日～9月6日)に代わり、開催したものである。

(本展担当者：山下 寿水)

関連事業

(1) インスタギャラリートーク

日 時：8月5日(日) 17:00～17:20

講 師：山下 寿水(当館主任学芸員)

参加者：30人



主要関連記事

(1) 新聞

・中国新聞

7/24 開幕記事

8/8 文化面特集記事

・毎日新聞

7/24 開幕記事

・読売新聞

8/18 地域面 展覧会紹介

(2) 雑誌等掲載

『月刊G』vol.50(2020年8月号)、『リビングひろしま』7月24日号

(3) ウェブ

「美術手帖」展覧会紹介、「美術手帖」レビュー「ヒロシマが掲げた平和を探り直す。檜山真有評」2020年10月25日、「artscape」、「アートアジェンダ」、「IMAオンライン」、「インターネットミュージアム」、「JR西日本おでかけネット」、「じゃらんnet」、「Yahoo! Japan ロコ」、「ひろたび」他



3 ヨーロッパの宝石箱 リヒテンシュタイン侯爵家の至宝展

会 期／令和2(2020)年9月18日(金)～11月29日(日)
主 催／広島県立美術館、中国新聞社、中国放送、イズミテクノ
後 援／オーストリア大使館／オーストリア文化フォーラム、
在日スイス大使館、広島テレビ、広島ホームテレビ、
テレビ新広島、広島エフエム放送、
FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、
尾道エフエム放送、FMはつかいち76.1MHz、
FM東広島89.7MHz
協 賛／YKK AP、日本ヒルティ、ライブアートブックス
広島展協賛／大和証券、大田鋼管、広島県信用組合、
一般財団法人ケンシン地域振興財団
協 力／全日本空輸、日本通運、日本リヒテンシュタイン協会
企画協力／Bunkamura、TNCプロジェクト
入 館 料／一 般 1,300(1,100)円
高・大学生 1,000(800)円
小・中学生 600(400)円
※()内は前売・20人以上の団体料金
入館者数／32,755人(73日間)



オーストリアとスイスには含まれた小国、リヒテンシュタインの君主であるリヒテンシュタイン侯爵家は、優れた美術品収集を一族の栄誉とする家訓を掲げ、400年以上の時をかけて名品の収集に力を注いできた。本展では、侯爵家のコレクションから、ルーベンスやクラナハ(父)、ヤン・ブリューゲル(父)らバロック期を代表する画家、ヴァルトミュラーらビーダーマイヤー期を代表する画家の油彩画に加え、東洋と西洋の交流の歴史を示す磁器、計126点を展示した。磁器の展示は、中国製の磁器と伊万里焼、その影響を受けて発展したウィーン窯製磁器などに加え、アジアで作られ、輸出されたのち、ヨーロッパで金属装飾を施された磁器など、特色あるコレクションで磁器の歴史を辿る興味深い内容となった。(本展担当者：森 万由子)

関連事業

- (1) 記念講演会「変貌する陶磁器—東西のコラボレーション」(広島県立美術館友の会共催)

日 時：9月26日(土) 13:30～15:00

講 師：鈴木 由紀夫(本展監修者、
佐賀県立九州陶磁文化館館長)

会 場：地階講堂

参加者：80人



(2) スライドトーク

日 時：10月2日(金)、10月23日(金)、11月6日(金) 各日16：00～16：30

10月11日(日)、11月1日(日)、11月15日(日) 各日15：00～15：30

講 師：山下 寿水(当館主任学芸員)、岡地 智子(当館学芸員)、森 万由子(当館学芸員)

会 場：地階講堂

参加者：計302人

(3) ギャラリートーク(※新型コロナウイルス感染拡大防止のためワイヤレスガイド使用)

日 時：10月29日(木)、11月12日(木) 各日15：00～

講 師：岡地 智子(当館学芸員)、森 万由子(当館学芸員)

会 場：3階企画展示室

参加者：計14人



(4) インスタギャラリートーク

日 時：9月17日(木) 12：00～

10月5日(月)、10月19日(月)、11月2日(月)、

11月16日(月) 各日17：00～

講 師：千足 伸行(当館館長)、岡地 智子(当館学芸員)、森 万由子(当館学芸員)

参加者：計168人

主要関連番組

(1) テレビ

8/18～ 中国放送 スポットCM 15秒

10/10～ 中国放送 応援スポットCM

9/15 中国放送 イマナマ！内ニュース「18日から 開幕へ」

9/15 広島ホームテレビ

9/18 中国放送 イマナマ！「リヒテンシュタイン展 開幕！開梱の様も」
(担当者出演：森)

10/13 中国放送 イマナマ！内ニュース「リヒテンシュタイン展1万人来場」

10/16 中国放送 イマナマ！「リヒテンシュタイン展 好評開催中！」

11/4 中国放送 イマナマ！「コロナ禍で美術館は？」

11/25 中国放送 昼ニュース「リヒテンシュタイン展 3万人突破」

11/25 中国放送 イマナマ！内ニュース「リヒテンシュタイン展 3万人突破」

(2) ラジオ

8/18～ RCC スポットCM 20秒

8/29～ RCC PLAY！ラジオ 開催告知

9/12 RCC PLAY！ラジオ 絵画編(担当者出演：森)

9/14 RCC ごぜん様さま 開催告知

9/18 RCC ラジオカー中継(担当者出演：森)

9/19 RCC PLAY！ラジオ 陶磁器編(担当者出演：岡地)

9/21 RCC ごぜん様さま 開催告知

9/22 FMおのみち(担当者出演：森)

9/23 FMふくやま(担当者出演：森)

- 9/26 RCC PLAY!ラジオ 絵画編(担当者出演：森)
- 10/10 RCC PLAY!ラジオ グッズ・コラボ編(担当者出演：森)
- 10/16 RCC おはようラジオ(担当者出演：岡地)
- 10/17 RCC PLAY!ラジオ 陶磁器編(担当者出演：岡地)

主要関連記事

(1) 新聞

・中国新聞

- 8/16 開催告知
- 9/15 展示作業記事
- 9/16 特集
- 9/19 開幕翌日記事
- 9/20 作品紹介記事 絵画編 (上)
- 9/21 作品紹介記事 絵画編 (中)
- 9/22 作品紹介記事 絵画編 (下)
- 9/25 事業ガイド (インスタライブPR)
- 9/28 評判広告①
- 9/30 連載記事①
- 10/1 連載記事②
- 10/2 連載記事③
- 10/2 講演会取材記事
- 10/3 評判広告②
- 10/7 「リヒテンシュタイン展のとびら^上」
- 10/8 評判広告③
- 10/8 「リヒテンシュタイン展のとびら^中」
- 10/9 事業ガイド 森学芸員寄稿
- 10/9 「リヒテンシュタイン展のとびら^下」
- 10/11 ミュージアムで会いましょう
- 10/14 1万人来場記事
- 10/15 秘蔵のきらめき 陶磁器編 (上)
- 10/16 秘蔵のきらめき 陶磁器編 (中)
- 10/16 事業ガイド (グッズ)
- 10/17 秘蔵のきらめき 陶磁器編 (下)
- 10/23 「リヒテンシュタイン展 ①絵画」森学芸員寄稿
- 10/23 事業ガイド (コラボメニュー)
- 10/24 「リヒテンシュタイン展 ②陶磁器」岡地学芸員寄稿
- 10/30 事業ガイド 岡地学芸員寄稿
- 11/6 事業ガイド 森学芸員寄稿
- 11/7 ワイヤレスギャラリートーク
- 11/13 事業ガイド 岡地学芸員寄稿
- 11/20 事業ガイド (絵はがき)



11/26 3万人来場記事

11/27 残り3日 広告

11/28 残り2日 広告

・聖教新聞

9/18 広告

・読売新聞 ひろしま県民情報

11/11

・山口新聞

11/17

(2) 雑誌等掲載

『Tj hiroshima』8月25日号、『Winkひろしま』8月23日号、『to-you』9月号、『Grandeひろしま』秋号、『経済レポート』9月8日号、『STORY』、『ちゅーぴーくらぶ』、『CHIC』9月15日号、『日刊広島』9月17日、『ふれあい』9月号、『美術の窓』9月18日号、『リビング広島』9月18日号、『バスびより』秋号、『kyodo weekly』9月21日号、『瀬戸マーレ』秋号、『経済春秋』9月号、『広島県立美術館友の会会報 色絵馬』92号、『ウェンディ』10月号、11月号

(3) ウェブ

「中国新聞デジタル」8月18日～、「RCCホームページ」8月18日～、「アートアジェンダ」8月17日～、「JAF」8月下旬～、「ファッションプレス」9月4日～、「青山デザインフォーラム」9月9日～、「JR西日本おでかけガイド」、「じゃらんnet」、「Yahoo!ロコ」

(4) その他

8月下旬～ レストハウス、広島駅、もみじ銀行、産業会館(デジタルサイネージ)

9/1～ 八丁堀交差点C-Vision、本通りNAVIA(街頭ビジョン)

10/10 広島交響楽団プログラム



カタログ内容

ごあいさつ

「メッセージ」リヒテンシュタイン侯ハンス=アダム2世

「メッセージ」ヨハン・クレフトナー(リヒテンシュタイン侯爵家コレクション・ディレクター)

「過去と現在のはざままで リヒテンシュタイン侯爵家コレクション」ヨハン・クレフトナー

カタログ

1 リヒテンシュタイン侯爵家の歴史と貴族の生活

2 宗教画

3 神話画・歴史画

4 磁器－西洋と東洋の出会い

「コラム：焼き物に付けられた金具」

鈴田由紀夫(佐賀県立九州陶磁文化館館長)

5 ウィーンの磁器工房

6 風景画

7 花の静物画

「コラム：東洋と西洋の絵の具の違い」鈴田由紀夫



作品解説

作家解説

主要参考文献

展覧会巡回先

Bunkamuraザ・ミュージアム	令和元(2019)年10月12日(土)～12月26日(木)
宇都宮美術館	令和2(2020)年1月12日(日)～2月24日(月・祝)
大分県立美術館	令和2(2020)年3月6日(金)～ 4月19日(日) 4月16日(木) ※新型コロナウイルス感染状況の拡大を受けて会期変更
東京富士美術館	令和2(2020)年5月2日(土)～7月5日(日) ※新型コロナウイルス感染状況の拡大を受けて中止
宮城県美術館	令和2(2020)年7月14日(火)～9月6日(日)
あべのハルカス美術館	令和3(2021)年1月30日(土)～3月28日(日)

4 浦上コレクション 北斎漫画—驚異の眼・驚異の筆—

会 期／令和2(2020)年12月10日(木)～1月31日(日)
※12月25日～1月1日休館

主 催／広島県立美術館、広島ホームテレビ、イズミテクノ、
中国新聞社

後 援／中国放送、広島テレビ、テレビ新広島、
広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、
エフエムふくやま、尾道エフエム放送、
FMはつかいち76.1MHz、FM東広島89.7MHz

協 賛／大田鋼管、広島県信用組合、
一般財団法人ケンシン地域振興財団

監 修／浦上 満(浦上蒼穹堂代表)

企画協力／山形美術館、アートワン

入 館 料／一 般1,200(1,000)円
高・大学生1,000(800)円
小・中学生600(400)円
※()内は前売・20人以上の団体料金

入館者数／11,319人(45日間)



日本が世界に誇る浮世絵師、葛飾北斎は多彩な動きを切り取る観察力と尽きせぬ想像力、卓越した描写力で万物を描き、幾多の名作を世に残した。その代表作『北斎漫画』全15編は図版総数にして約3,800点以上とも称され、日常の人物・風景・動植物から空想の世界まで幅広く描いた版本である。

本展は、世界一の質と量を誇る浦上満氏『北斎漫画』コレクションより厳選した200点を紹介するものであり、特別にもう一つの代表作『富嶽三十六景』の名品10点をも展示した。『富嶽三十六景』の特別展示とあわせて、北斎芸術における『北斎漫画』の位置付けが鮮明に浮かび上がる展示となった。

なお会期中、広島県における新型コロナウイルス感染状況の拡大を受けて、広島県が発表した感染拡大防止対策の方針に従い、当初予定の関連事業(一部)を中止した。

(本展担当者：隅川 明宏)



関連事業

- (1) 記念講演会「世界を驚かせた北斎と『北斎漫画』」(広島県立美術館友の会共催)

日 時：12月10日(木) 13:30～15:00

講 師：浦上 満(本展監修者／浦上蒼穹堂代表)

会 場：地階講堂

参加者：80人

- (2) ティーチャーズ・デイ「北斎入門」
 日 時：12月13日(日) 13：30～14：30
 講 師：隅川 明宏(当館学芸員)
 会 場：地階講堂
 参加者：13人
- (3) スライドトーク
 日 時：12月11日(金) 11：00～
 講 師：隅川 明宏(当館学芸員)
 会 場：地階講堂
 参加者：19人
- (4) インスタギャラリートーク
 日 時：12月21日(月)、1月18日(月) 各日17：00～
 講 師：隅川 明宏(当館学芸員)
 参加者：計103人
- (5) TikTok Live「GoTo アート」
 日 時：1月15日(金) 19：00～
 主 催：バイトダンス
 出 演：浦上 満(本展監修者／浦上蒼穹堂代表)、
 隅川 明宏(当館学芸員)



主要関連番組

- (1) テレビ
- | | | | |
|--------|------------|----------|-----------------------|
| 10/10～ | 広島ホームテレビ | スポットCM | 15秒 |
| 10/10～ | 広島ホームテレビ | スポットCM | 30秒 |
| 10/10～ | 広島ホームテレビ | ぼるぼるエンタ | (毎週金23：10～・毎週土22：55～) |
| 10/15～ | 広島ホームテレビ | 情報ランド | (毎週月～金9：55～) |
| 12/10 | 広島ホームテレビ | みみよりライブ | 5up!生中継 |
| 1/13 | NHKニュース昼、夜 | | |
| 1/23 | 広島ホームテレビ | 5up!サタデー | (毎週土9：30～) |
- (2) ラジオ
- | | | | |
|-------|----------|--|--|
| 12/18 | F M東広島 | | |
| 12/22 | 尾道エフエム放送 | | |

主要関連記事

- (1) 新聞
- ・中国新聞
- | | |
|-------|-----------------------|
| 10/10 | 開催告知 |
| 12/8 | 特集 |
| 12/11 | 開幕翌日記事 |
| 12/18 | 事業ガイド |
| 1/8 | 広島県立美術館「北斎漫画」展 浦上満氏寄稿 |



1/13 広場 一般投稿

・読売新聞

12/30 県民情報 イベント

・日刊広島

1/1

(2) 雑誌等掲載

『ウエンディ広島』12月号、『レジャシネ』1月11日～2月24日、『Cue備後(おでかけガイド)』1月17日号、『ホットペッパー』2月号、『Tj hirosshima』12月号、『Winkひろしま』11月23日号、『Wink備後版』11月25日号、『フリーペーパー ワーキン』11/2、9、16号、『リビング広島』11月20日号、12月11日号、『西広島タイムズ』11月13日号、『くれえばん』12月号、『CHIC』12月15日号、『プレスネット』11月19日、『ホームテレビ季刊タイムテーブル』10～12月号、『美術の窓』1月号、『県民だより』1月3日号、『to-you』12月号、『生協ひろしま』10月チラシ、『福利ひろしま』10月号『経済春秋』12月号、『ぴあ すごい美術展』2020年下半期版、『広島県立美術館友の会会報 色絵馬』92号

(3) ウェブ

「アートアジェンダ」11月19日～、「マイフェバ」12月17日～、「JAF」11月15日～、「美術手帖」11月下旬～、「ファッションプレス」12月9日～、「青山デザインフォーラム」11月18日～、「ぴあ ポイントサイト」12月1日～、「ひろたび」11月下旬～、「ひろしま観光ナビ」11月下旬～、「JR西日本おでかけサイト」12月22日～、「じゃらんおでかけネット」12月22日～、「hiroshima person」12月1日～

(4) その他

12/1～1/31	NAVIA(街頭ビジョン)
1/25～1/31	紙屋町シャレオ(街頭ビジョン)
11/1～11/30	セブン-イレブン店頭POP(中国5県1,020店舗)
12/10～1/30	7ぴあ(レシート)(中国四国九州)
12/10	広島交響楽団プログラム表紙

カタログ内容
発行なし



5 第67回日本伝統工芸展広島展

会 期／令和3(2021)年2月17日(水)～3月7日(日)
主 催／広島県、広島県教育委員会、広島県立美術館、
NHK広島放送局、朝日新聞社、
公益社団法人日本工芸会
後 援／文化庁
協 賛／マツダ、大田鋼管、広島県信用組合、
一般財団法人ケンシン地域振興財団、ヒロタニ、
ヒロテック
入 館 料／一般700円(500円)、高・大学生400円(200円)、
中学生以下無料
※()内は前売・20人以上の団体料金
入館者数／8,726人(19日間)



日本伝統工芸展は、日本の風土の中から生まれた世界に誇る工芸技術を発展継承させることを目的に、昭和29年に創設された。伝統的な「わざ」をベースとしながら、今日の生活に合った新たな技術、新たな表現を築き上げることを目標としている。広島展では、陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、諸工芸の各部門から、広島在住作家の入選作10点を含む279点を展示し、広く県民に鑑賞の機会を提供することにより、伝統工芸に対する理解を深め、地域文化の向上に資することに努めた。

なお会期中、広島県における新型コロナウイルス感染状況の拡大を受けて、広島県が発表した感染拡大防止対策の方針に従うこととし、当初予定の関連事業(一部)を中止した。

(本展担当者：岡地 智子)

広島県在住入選者

陶 芸	赤毛 敏男	《備前花器》、木村 芳郎《碧釉漣文器》
染 織	平 恵子	《紬織着物「こもれび」》、山城 直子《型絵染着物「物語」》
漆 芸	金城一国齋	《切金螺鈿箱「合歓」》、田代 明樹男《籃胎箱「祈り」》
木竹工	小林 松齋	《櫛拭漆盛器》
人 形	奥 富久枝	《木芯桐塑布紙貼「思春期」》
諸工芸	栗根 仁志	《七宝箱「爽」》、宇田 勢津子《有線七宝蓋物「はつ夏」》

関連事業

(1) インスタギャラリートーク

[日 時] [講 師(内容)]

2月18日(木) 岡地 智子(当館学芸員)(県内入選作家のうち染織・七宝)

2月22日(月) 十四代 今泉今右衛門 ※

2月23日(火) 木村 芳郎 ※

2月25日(木) 福田 浩子、岡地 智子(当館学芸員)(県内入選作家のうち陶芸・木工)

3月1日(月) 金城 一国齋 ※

3月4日(木) 福田 浩子、岡地 智子(当館学芸員)(県内入選作家のうち人形・漆芸)
各日17:00~

※は当館と作家工房をつないだコラボ配信

参加者: 計368人

(2) 子ども鑑賞コース 出張授業

令和2年10月28日(水)	広島市立袋町小学校4・5年生(76人)	小林 小斎(木工)
11月6日(金)	三原市立糸崎小学校5年生(17人)	田代 昭夫(漆芸)
11月25日(水)	広島市立己斐東小学校5年生(18人)	栗根 仁志(七宝)
12月8日(火)	府中市立栗生小学校6年生(27人)	今田 拓志(陶芸)

(3) 子ども鑑賞コース ワークショップ

事前に学芸員が「春夏秋冬」をテーマに作品16点を選定し、それらの配置を子供たちに考えてもらった。(後日、子供たちが考えた展示プラン通りに陳列した。)また、作品解説の様子を録画・編集した動画を展示室で上映した。



日時: 1月11日(月・祝) 13:30~15:30

講師: 福田 浩子(当館学芸課長)

岡地 智子(当館学芸員)

内容: 「学芸員の仕事に挑戦しよう！」

会場: オンライン(zoom)

参加者: 5人

(4) こども鑑賞ガイドブック、キャラクターカード作成・配布

ガイドブック: A5版16ページ、3,000部

カード: 名刺サイズ6種類、各1,000部

(5) その他関連イベント

ア 広島会場限定展覧会オリジナル和菓子の制作・販売

地元の和菓子店(旬月 神楽/広島市中区)の協力を得て、朝日新聞社賞受賞作品をイメージした和菓子を制作・販売した。

期間: 2月17日(水)~28日(日) ※1日10食限定

価格: 800円(抹茶とセット)



イ 工芸技法キャラクターオリジナルトートバッグプレゼント

企画(3名) 朝日新聞掲載

応募数: 103通



主要関連番組

(1) テレビ

- 2/18 NHK 朝、昼、夜のニュース(開幕)
- 2/20 広島ホームテレビ 昼のニュース
- 3/2 NHK ひるまえ直送便(担当者出演)
- NHKスポット 数回



主要関連記事

(1) 新聞

・朝日新聞

- 8/26 県内10人入選 朝日新聞社賞 木村芳郎さん
- 10/29 木工作家に学ぶ宮島細工の魅力 小林松斎さん 出張授業
- 12/9 粘土で箸置き陶芸に触れる 今田拓志さん 栗生小学校出張授業
- 1/12 子ども学芸員 展示に挑戦
- 1/27 日本伝統工芸展 催し多彩に(開幕予告)
- 2/6 日本伝統工芸展講演会など中止
- 2/11 己を探求 高めた美(特集)
- 2/16 器のブルー 食べたいブルー 伝統工芸展あす開幕 オリジナルスイーツ
- 2/17 作品解説① 碧釉漣文器 木村芳郎
- 2/18 技と美 独創性光る280点 (開幕記事)
- 2/18 作品解説② 七宝箱「爽」 栗根仁志
- 2/20 作品解説③ 木芯桐塑布紙貼「思春期」 奥富久枝
- 2/21 作品解説④ 備前花器 赤毛敏男
- 2/22 作品解説⑤ 型絵染着物「物語」 山城直子
- 2/24 工芸技法キャラトートバックに 3人にプレゼント
- 2/24 作品解説⑥ 切金螺鈿箱「合歓」 金城一国斎
- 2/25 作品解説⑦ 紬織着物「こもれび」 平恵子
- 2/27 作品解説⑧ 櫛拭漆盛器 小林松斎
- 3/1 作品解説⑨ 有線七宝蓋物「はつ夏」 宇田勢津子
- 3/2 作品解説⑩ 籃胎箱「祈り」 田代明樹男

(新聞広告)

- ・広島県版：2/14(全5段)、2/15(全5段)、2/20(全5段)、2/7(半5段)、
2/17(半5段)、2/18(半5段)、2/23(半5段)、2/27(半5段)、
3/4(半5段)、3/5(半5段)、2/8(全5段)、2/19(全5段タイアップ)
- ・備後版：2/14(全5段)、2/18(半5段)、2/23(半5段)、3/5(半5段)
- ・ビジネス朝日 2月18日号

(折込チラシ) 2/14

・中国新聞

- 11/26 七宝焼 きれいにできた 栗根仁志さん 己斐東小出張授業
- 2/24 卓越の技に現代的感性 広島で日本伝統工芸展

・毎日新聞

11/11 漆の歴史を作家が解説 田代昭夫さん 糸崎小出張授業

・山口新聞

1/28

2/9

・日刊広島

3/5

(2) 雑誌等掲載

『ウエンディ』1月号、『経済レポート』、『Wink』2月号、『リビング広島』2月26日号、『くれえばん』2月号、『サンデー周南新聞』2月13日号、『ホットペッパー』2月号、『Tj hiroshima』2月号、『to-you』2月号、『CUE』2月14日

(3) ウェブ

「まいぷれ広島」、「旅やか広島」、「じゃらんnet」、「JR西日本」、「ひろたび」、「広島県観光連盟サイト」、「アートアジェンダ」、「インターネットミュージアム」

(4) その他

2/12～ 紙屋町シャレオ

2/16～ サイネージ：安佐南区役所、中区役所、西区役所

2/10 広島交響楽団プログラム表紙

カタログ内容

趣旨

出品目録

出品作品図版

特別展示「わざを伝える」文化財保存事業報告 無名異焼」伝承者養成研究会
第67回日本伝統工芸展入選作品及び受賞作品の決定について

展覧会巡回先

東京	令和2(2020)年9月16日(水)～9月28日(月)	日本橋三越本店
名古屋	令和2(2020)年9月30日(水)～10月5日(月)	名古屋栄三越
京都	令和2(2020)年10月14日(水)～10月16日(金)	京都産業会館ホール
金沢	令和2(2020)年10月23日(金)～11月3日(火・祝)	石川県立美術館
岡山	令和2(2020)年11月13日(金)～11月29日(日)	岡山県立美術館
松江	令和2(2020)年12月2日(水)～12月25日(金)	島根県立美術館
高松	令和3(2021)年1月2日(土)～1月17日(日)	香川県立ミュージアム
仙台	令和3(2021)年1月21日(木)～1月26日(火)	仙台三越
福岡	令和3(2021)年2月3日(水)～2月8日(月)	福岡三越

所蔵作品展

当館では、5,000点を超える所蔵作品の中から、毎年、年4回の所蔵作品展を開催している。しかし、本年度は、新型コロナウイルスの影響により令和2年3月7日から5月11日まで臨時休館となったことから、予定していた春の所蔵作品展を開催することが出来なかった（臨時休館が終わった後は、前年度の冬の所蔵作品展を継続）。

夏の所蔵作品展では、戦後75年を記念して、平和記念公園にある《教師と子どもの碑》で知られる彫刻家・芥川永の特集や、ナチスに弾圧された美術をテーマとした展示など、戦争をテーマにした企画を行った。また、3階企画展示室で行う予定の特別展が新型コロナウイルスの影響で次年度へ延期となったことに伴い、3階企画展示室の一部においても所蔵作品展を実施、前衛陶芸集団「走泥社」をテーマにした展示を行った。

秋の所蔵作品展では、ロシア・アヴァンギャルド特集や、翌年、特別展が開催される南薫造特集、中央アジアのスザニ等の特集の他、隣接する名勝・縮景園の築庭400年を記念する展示として、県内外から作品を借用して「縮景園と近世広島絵画」展を行った。

冬の所蔵作品展では、昨年度新たに収蔵した作品の紹介を中心に、広島ゆかりの彫刻や工芸作品、文学と関連する西洋美術、美術館活動の裏側を紹介する展示など、コレクションを多様な切り口で紹介した。

所蔵作品展、すなわち常設展というものは恒常的に実施できるというのが美術館界の常識だが、それがあくまでも平和な時代を前提とした営みであったことに改めて気付かされた一年だった。

(総括担当者：神内 有理)

夏の所蔵作品展

サマーミュージアム 戦後75年特集

令和2年7月23日(木・祝)～9月27日(日)

前期：7月23日(木・祝)～8月23日(日)

後期：8月25日(火)～9月27日(日)

彫刻展示スペース 造形で奏でる作家－芥川永－

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
1	芥川 永	1915-1998	おとなの影	1970(昭和45)	高62.0×22.0×62.0	ブロンズ	1体	第34回新制作協会展	
2	芥川 永		教師と子どもの碑(石膏原型)	1970(昭和45)	高240.0	石膏	1体		
3	芥川 永		太田川(近くの声/太田川1)	1974(昭和49)	高54.0×25.0×22.0	ブロンズ	1体	第38回新制作協会展	
4	芥川 永		もどれない風(太田川2)(石膏原型)	1974(昭和49)	高36.0×42.0×10.4	石膏	1体		
5	芥川 永		もどれない風(太田川2)	1974(昭和49)	高34.0×42.0×11.0	ブロンズ	1体	第38回新制作協会展	
6	芥川 永		遠くの声(太田川3)	1974(昭和49)	高68.0×25.0×20.0	石膏	1体	第38回新制作協会展	
7	芥川 永		雲になった蛙(エチュード)	1975(昭和50)	高22.5×17.0×6.8	石膏	1体		
8	芥川 永		雲になった蛙(石膏原型)	1975(昭和50)	高42.5×32.5×12.2	石膏	1体		
9	芥川 永		雲になった蛙	1975(昭和50)	高39.5×32.5×12.2	ブロンズ	1体	第39回新制作協会展	
10	芥川 永		水の子(水/太田川4)(石膏原型)	1976(昭和51)	高38.5×32.5×25.5	石膏	1体		
11	芥川 永		水の子(水/太田川4)	1976(昭和51)	高73.0×33.0×26.0	ブロンズ	1体	第40回新制作協会展	
12	芥川 永		たき火する人(かえる人/たき火)(石膏原型)	1977(昭和52)	高83.0×40.0×41.0	石膏	1体		
13	芥川 永		たき火する人(かえる人/たき火)	1977(昭和52)	高84.0×42.0×23.0	ブロンズ	1体	第41回新制作協会展	
14	芥川 永		カンタトリス(遠くの声3)(石膏原型)	1984(昭和59)	高71.0×29.8×32.5	石膏	1体		
15	芥川 永		カンタトリス(遠くの声3)	1984(昭和59)	高71.0×30.9×30.9	ブロンズ	1体	第48回新制作協会展	

第1室 退廃芸術展－危機の時代の芸術家たち

No	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
16	サルバドール・ダリ	1904-1989	ヴィーナスの夢	1939	243.8×487.6	油彩・画布・パネル	1面	ニューヨーク万国博覧会	9月1日～
17	エーリッヒ・ヘッケル	1883-1970	木彫りのある静物	1913	70.5×60.7	油彩・画布	1面		
18	ワシリー・カンディンスキー	1866-1944	小さな世界VI	1922	35.6×28.0	木版・紙	1面		前期
19	ワシリー・カンディンスキー		小さな世界IX	1922	35.6×28.0	ドライポイント・紙	1面		後期
20	パウル・クレー	1879-1940	内なる光に照らされた聖人	1921	39.0×26.8	リトグラフ・紙	1面		
21	オスカー・シュレンマー	1888-1943	人物H2	1921	48.0×34.0	リトグラフ・紙	1面		前期
22	オスカー・シュレンマー		人物集合像K1	1921	48.8×33.8	リトグラフ・紙	1面		後期
23	マックス・エルンスト	1891-1976	流行に栄あれ、芸術よ墜ちろ	1919	45.5×33.0	リトグラフ・紙	8面のうち 4面		前期 後期
24	アレクサンダー・カールト	1881-1939	静物	1925	80.0×101.0	油彩・画布	1面		
25	アレクサンダー・コルダ	1898-1976	ヴァーティカル・ホワイト・フレーム	1936	高265.4	金属・ワイヤー・パネ・木	1点		
26	パブロ・ピカソ	1881-1973	フランコの夢と嘘(Iの第2刷)	1937	31.7×42.2	エッチング・シュガー・アク アチント・紙	1面		
27	パブロ・ピカソ		フランコの夢と嘘(IIの第5刷)	1937	31.7×42.2	エッチング・シュガー・アク アチント・紙	1面		後期
28	アレクセイ・ヤクニツキー	1865-1941	頭部	c.1922	17.7×12.4	リトグラフ・紙	1面		前期
29	ヨハネス・イッテン	1888-1967	ことわざ	1921	35.4×24.7	リトグラフ・紙	1面		後期
30	ゲルハルト・マルクス	1889-1981	猫	1921	38.0×55.0	木版・紙	1面		後期
31	ゲルハルト・マルクス		ふくろう	1921	38.0×28.1	木版・紙	1面		前期
32	マックス・ベックマン	1884-1950	ヤールマルクト	1921	56.5×41.3	紙・インク・ドライポイント	10面のうち 5面		前期 後期
33	ジョージ・グロス	1893-1959	群盗	1922	70.0×51.0	リトグラフ・紙	10面のうち 5面		前期 後期
34	ライオネル・ファイニンガー	1871-1956	海辺の夕暮	1927	45.0×77.0	油彩・画布	1面		

第2室 戦争と平和

No	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
35	小林 千古	1870-1911	やし(静物)	1893(明治26)	34.0×44.0	油彩・画布	1面		
36	小林 千古		ミルク・メイド	1897(明治30)	69.0×50.8	油彩・画布	1面	第10回白馬会展	
37	小林 千古		茶器と梅花	1903(明治36)	18.5×65.5	油彩・画布	1面	第10回白馬会展	
38	南 薫造	1883-1950	坐せる女	1908(明治41)	112.1×83.3	油彩・画布	1面	第4回文展	
39	神田 周三	1894-1972	被爆後風景	不詳	56.6×84.0	油彩・紙	1面		
40	名井 萬亀	1896-1976	道	1956(昭和31)	197.0×100.0	油彩・画布	1面	第2回現代日本美術展	
41	名井 萬亀		地獄の港	1958(昭和33)	50.1×65.2	油彩・画布	1面	第3回現代日本美術展	
42	岡田 謙三	1902-1982	北市場	1942(昭和17)	104.2×87.0	油彩・画布	1面	第29回二科展	
43	山路 商	1903-1944	自画像	1942(昭和17)	26.0×19.2	油彩・板	1面		
44	井上長三郎	1906-1995	屠殺場	1936(昭和11)	203.0×270.0	油彩・画布	1面	第6回独立展	
45	鬨 光	1907-1946	帽子をかむる自画像	1943(昭和18)	60.0×50.0	油彩・画布	1面		
46	鬨 光		風景	1944(昭和19)	41.0×52.5	油彩・画布	1面		
47	灰谷 正夫	1907-1985	砂	1969(昭和44)	130.3×97.0	油彩・画布	1面	自由美術春季選抜展	
48	寺田 政明	1912-1989	月光によりて	1943(昭和18)	31.8×40.9	油彩・板	1面	新人画会第2回展	
49	寺田 政明		さかな(悲哀)	1943(昭和18)	53.1×33.9	油彩・板	1面	新人画会第3回展	
50	古沢 岩美	1912-2000	死の誕生	1954(昭和29)	97.0×193.9	油彩・画布	1面		
51	岩岡 貞美	1913-1945	耕丘	1944(昭和19)	119.5×71.0	油彩・画布	1面	第14回独立展	
52	手島守之輔	1914-1945	ゆかたの少女	1938(昭和13)	133.0×93.0	油彩・画布	1面		
53	菅井 汲	1919-1996	SOLEIL BLEU(青い太陽)	1969(昭和44)	235.5×236.0	アクリル絵具・画布	1面		
54	金光 松美	1922-1992	Mt. WHITNEY	1976(昭和51)	112.0×243.9	油彩・画布	1面		
55	名柄 禎子	1931-	白の残映	1975(昭和50)	193.9×260.6	油彩・画布	1面	第39回新制作展	
56	入野 忠芳	1939-2013	浮遊	1970(昭和45)	117.0×90.9	油彩・画布	1面		

第3室 小特集 平山郁夫

No	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
57	児玉 希望	1898-1971	飛泉淙々	1931(昭和6)	260.0×145.0	絹本彩色	1面	第12回帝展	
58	奥田 元宋	1912-2003	泉響	1963(昭和38)	259.1×193.9	紙本彩色	1面	第6回新日展	
59	清水 南山	1875-1948	波に龍文水瓶	1937(昭和12)	高33.0 径13.0	銀・鍍金・彫金	1点	第1回新文展	
60	平山 郁夫	1930-2009	家路	1953(昭和28)	146.0×206.0	紙本彩色	1面	第38回院展	
61	平山 郁夫		ひととき(顔)	1956(昭和31)	180.0×197.0	紙本彩色	1面	第41回院展	
62	平山 郁夫		内海の春	1954(昭和29)	145.0×208.0	紙本彩色	1面	第39回院展	
63	平山 郁夫		受胎霊夢	1962(昭和37)	179.5×178.8	紙本彩色	1面	第47回院展	
64	平山 郁夫		広島生変図	1979(昭和54)	171.0×364.0	紙本彩色	1面	第64回院展	

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
65	平山 郁夫		アフガニスタンのらくだ (カズニールへの道)	1979(昭和54)	34.0×50.0	彩色・紙	1面		
66	平山 郁夫		タイ族の娘(中国昆明)	1979(昭和54)	49.0×33.0	彩色・紙	1面		
67	平山 郁夫		石仏(炳靈寺石窟)	1979(昭和54)	40.0×32.0	彩色・紙	1面		
68	平山 郁夫		みのり	1961(昭和36)	152.0×60.0	紙本彩色	1面	第16回春の院展	
69	平山 郁夫		天山南路(昼)	1960(昭和35)	164.2×218.8	紙本彩色	1面		
70	平山 郁夫		波斯黄堂旧址	1974(昭和49)	166.7×367.4	紙本彩色	1面	第59回院展	
71	平山 郁夫		巖島	1972(昭和47)頃	44.0×49.0	紙本彩色	1面		

第4室 民藝運動の作家たち

No.	作者・民族名・地域	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
72	河井寛次郎	1890-1966	白地丸紋草花図隅切鉢	不詳	高8.7 一辺32.9	陶器	1枚		
73	河井寛次郎		色絵梅花図蓋物	不詳	高9.8 一辺10.7	陶器・色絵	1合		
74	河井寛次郎		辰砂餉釉重箱	不詳	高22.0 幅25.4	陶器	1合		
75	河井寛次郎		呉州鉄葉草文盒子	不詳	高4.5 一辺4.5	陶器	1合		
76	河井寛次郎		辰砂草文盒子	不詳	高8.9 径10.3	陶器	1合		
77	河井寛次郎		呉州辰砂水指	不詳	高18.5 口径13.6	陶器	1口		
78	浜田 庄司	1894-1978	黒釉鑄流描大鉢	昭和30年代後半	高13.8 径47.0	陶器	1口		
79	浜田 庄司		ガレナ釉掻落文蓋壺	1922(大正11)頃	高15.2 一辺9.6	陶器	1合		
80	富本 憲吉	1886-1963	白磁壺	1928(昭和3)	高23.3 径29.0	磁器	1口		
81	バーナード・リーチ	1887-1979	鉄絵山樹文大壺	1950(昭和25)頃	高39.4 幅29.2	陶器	1口		
82	バーナード・リーチ		鉄釉柳文扁壺	1965(昭和40)	高28.2	陶器	1口		
83	バーナード・リーチ		染付薊文盒子	1957-1960(昭和32-35)	高さ4.9 径7.6	陶器	1合		
84	バーナード・リーチ		蠟抜格子花文蓋付茶壺	1923(大正12)頃	高15.2 一辺9.6	陶器	1合		
85	芹沢 銈介	1895-1984	組紐文のれん	1940(昭和15)		紬・型染	1枚		
86	芹沢 銈介		紙を造る人	1950(昭和25)	171.5×162.0	木綿・型染	2曲1隻		
87	芹沢 銈介		李朝の函文帯地	1965(昭和40)	幅38.0	絹 縮緬 型染	1本		
88	宗廣 力三	1914-1989	茜茶はぐし どぼんこ染緋着物	1985(昭和60)	桁65.5 丈173.0	絹・紬	1領		
89	志村ふくみ	1924	紬織着物 枝垂桃	1985(昭和60)	桁67.0 丈158.0	絹・紬	1領		前期
90	志村ふくみ		紬織着物 巖島	1985(昭和60)	桁79.0 丈173.0	絹・紬	1領		後期
91	黒田 辰秋	1904-1982	朱塗円座卓	不詳	高30.0 径84.0	木・漆	1基		
92	黒田 辰秋		朱沃地大名縮飾篋	1982(昭和57)	高22.5 17.0×33.5	木・漆・螺鈿	1合		
93	船木 倭帆	1935-2013	花文鉢	不詳	高8.9 径26.5	吹きガラス	1口		
94	船木 倭帆		翼文鉢	不詳	高8.0 径23.3	吹きガラス	1口		
95	船木 倭帆		リーフ文花瓶	不詳	高27.8 径15.5	吹きガラス	1口		
96	船木 倭帆		線巻レーマー杯	不詳	高11.8 径7.5	吹きガラス	1口		
97	船木 倭帆		イチゴプラントレーマー杯	不詳	高16.8 径8.3 高14.7 径7.5	吹きガラス	2口		
98	船木 倭帆		アラレモール脚ワイングラス	不詳	高15.0 径7.0	吹きガラス	1口		
99	船木 倭帆		モール脚ワイングラス	不詳	高13.6 径6.7	吹きガラス	1口		
100	船木 倭帆		カラーツイストワイングラス	不詳	高20.0 径7.5	吹きガラス	1口		
101	船木 倭帆		ツイスト脚ワイングラス	不詳	高16.8 径6.6	吹きガラス	1口		
102			【工藝】	1931-1951(昭和6-26)		紙・木綿など	52冊 (13冊のうち)		
103			重要文化財 伊万里色絵花卉文 輪花鉢(柿右衛門様式)	江戸時代	17世紀後半	高11.5 口径24.4	磁器・色絵	1口	
104			伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代	17世紀後半	高44.3	磁器・色絵	1軀	
105			伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代	17世紀後半	高45.0	磁器・色絵	1軀	

関連事業

インスタギャラリートーク

日 時：8月4日(火) 17:00～

講 師：角田 新(当館主任学芸員)

前衛陶芸集団「走泥社」の時代

令和2年7月23日(木・祝)～8月23日(日)

3階企画展示室（西展示室・前室）

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
1	八木 一夫	1918-1979	翔鳥花壺	1959(昭和34)	高19.0 径19.0	陶器	1口		
2	八木 一夫		黒象嵌花生	1959(昭和34)	高20.0 径13.0	陶器	1口		
3	八木 一夫		人物	1964(昭和39)	高36.0 17.0×11.0	黒陶	1点		
4	八木 一夫		扁壺	1967(昭和42)	高26.3	陶器	1口		
5	八木 一夫		右の目と左の目の情報	1968(昭和43)	高21.3 23.5×15.0	黒陶	1点		
6	八木 一夫		ブルーブック	1972(昭和47)	高22.0 38.5×22.0	黒陶	1点		
7	八木 一夫		先導者	1974(昭和49)	高40.0 16.5×14.0	黒陶・木	1点		
8	八木 一夫		盲亀	1964(昭和39)	高34.0 13.0×31.0	黒陶	1点		
9	八木 一夫		黒陶	1977(昭和52)	高37.0 18.0×18.0	黒陶	1点		
10	八木 一夫		いつも離陸の角度で	1977(昭和52)	高27.0 27.5×30.5、 高33.5 30.0×27.3	黒陶・鉛板	1組		
11	八木 一夫		盲亀	1978(昭和53)	高8.0 38.5×30.0	黒陶・鉛板	1点		
12	八木 一夫		雲の記憶	1978(昭和53)	高42.8 41.0×11.5	黒陶・鉛板	1組		
13	鈴木 治	1926-2001	土偶戦士	1961(昭和36)	高52.0 33.0×13.0	陶	1点		
14	鈴木 治		ロッキングバード	1973(昭和48)	高さ43.0 23.0×32.0	陶	1点		
15	鈴木 治		神経質な鳥	1975(昭和50)	高18.7 20.0×12.6	青白磁・(台)木	1点		
16	鈴木 治		鳥のプロペラ	1981(昭和56)	高44.0 36.0×20.0	陶	1点		
17	山田 光	1924-2001	緑釉「塔」	1960(昭和35)	高63.3 9.0×14.0	陶・木	1点		
18	山田 光		窓	1966(昭和41)	高39.5 29.0×6.0	陶	1点		
19	山田 光		消えた1	1976(昭和51)	高47.0 25.5×6.0	陶	1点		
20	山田 光		化粧の塔	1980(昭和55)	高37.5 45.4×19.0	陶	1点		
21	熊倉 順吉	1920-1985	アパート	1980(昭和55)	高45.0 26.0×10.0	陶	1点		
22	熊倉 順吉		曲面のレコード・ラック	1981(昭和56)	高39.0 27.5×11.0	陶	1点		
23	林 康夫	1928-	作品	1954(昭和29)	高45.0 38.0×30.0	陶	1点		
24	林 康夫		POSE	1972(昭和47)	高38.0 31.0×26.0	陶	1点		
25	林 秀行	1937-	饒舌	1976(昭和51)	高42.0 12.0×21.0、 高12.0 42.0×21.0	陶	1組		
26	川上 力三	1935-	作品	1963(昭和38)	高60.0 25.0×20.0	陶	1点		
27	笹山 忠保	1939-	金彩六曲屏風	1983(昭和58)	高75.0 258.0×8.5	陶	1組		
28	宮永 理吉	1935-	三角錐の中のブルー	1976(昭和51)	高31.0 30.0×30.0	磁器	1点		
29	宮永 理吉		雲は夏	1988(昭和63)	高34.0 33.0×13.5	磁器	1点		
30	益田 芳徳	1934-2010	風発A	1989(平成元)	高43.5 幅65.0	ガラス・金属	1点		
31	佐藤 敏	1936-	四角い月	1988(昭和63)	高15.0 40.0×230.0	陶器・金属	1点		
32	柳原 睦夫	1934-	空の力学	1976(昭和51)	高30.4 38.0×36.0	陶	1点		
33	荒木 高子	1921-2004	砂の聖書	1983(昭和58)	高13.5 47.3×38.0	陶・シャモット・砂	1点		
34	鯉江 良二	1938-	黒陶	1965(昭和40)	12.0×15.0×12.5、 13.0×14.0×15.0	黒陶	1組		
35	高木 敏子	1924-1989	綴織壁掛「女」	1962(昭和37)	165.0×153.0	絹・綴織	1枚		
36	高木 敏子		作品「68」	1968(昭和43)	154.0×116.0	絹・綴織	1枚		

秋の所蔵作品展

名品アラカルト

令和2年10月1日(木)～12月24日(木)

前期：10月1日(木)～11月8日(日)

後期：11月10日(火)～12月24日(木)

彫刻展示スペース 青磁と白磁と青白磁

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
1	板谷 波山	1872-1963	青磁鳳耳花瓶	不詳	高28.3 胴径13.1	青磁	1口		
2	板谷 波山		氷華磁草花文花瓶	不詳	高36.0 胴径15.7	白磁	1口		
3	河井寛次郎	1890-1966	青瓷桃子餅	1923(大正12)	高10.8 口径9.5	青磁	1口		
4	河井寛次郎		青磁盃	1922(大正11)	高11.6 口径15.4	青磁	1口		
5	鈴木 治	1926-2001	秋の馬	1975(昭和50)	高20.6 25.5×11.6	青白磁	1点		
6	宮永 理吉	1935-	風の眼差し	2004(平成16)	高45.0 20.0×21.0	青白磁	1点		
7	宮永 理吉		パイプ	1972(昭和47)	高26.0 18.0×14.5	青白磁	1点		
8	塚本 快示	1912-1990	青白磁牡丹文平鉢	1965(昭和40)	高9.7 径43.8	青白磁	1口		
9	塚本 快示		白瓷輪花唐草文大鉢	1980(昭和55)	高5.2 径39.3	白磁	1口		

第1室 ロシア・アヴァンギャルド

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
10	サルバドール・ダリ	1904-1989	ヴィーナスの夢	1939	243.8×487.6	油彩・画布・パネル	1面	ニューヨーク万国博覧会	
11	アレクサンダー・コルダ	1898-1976	ヴァーティカル・ホワイト・フレーム	1936	高265.4	金属・ワイヤー・パネ・木	1点		

ロシア・アヴァンギャルドの作家たち

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
12	ワシリー・カンディンスキー	1866-1944	小さな世界Ⅰ	1922	35.6×28.0	リトグラフ・紙	1面		前期
13	ワシリー・カンディンスキー		小さな世界Ⅱ	1922	35.6×28.0	リトグラフ・紙	1面		前期
14	ワシリー・カンディンスキー		小さな世界Ⅲ	1922	35.6×28.0	リトグラフ・紙	1面		前期
15	ワシリー・カンディンスキー		小さな世界Ⅳ	1922	35.6×28.0	リトグラフ・紙	1面		後期
16	ワシリー・カンディンスキー		小さな世界Ⅶ	1922	35.6×28.0	木版・紙	1面		後期
17	ワシリー・カンディンスキー		小さな世界Ⅸ	1922	35.6×28.0	ドライポイント・紙	1面		後期
18	カジミール・マレーヴィチ	1878-1935	アロギズム (1つの正方形、2つの長方形、2つの円、2つの円錐)	1914～15	16.5×11.2	鉛筆・紙	1面		後期
19	カジミール・マレーヴィチ		シュプレマティズムの素描(二つの正方形)	1916～17	16.2×11.0	鉛筆・紙	1面		前期
20	カジミール・マレーヴィチ	1878-1935	シュプレマティズムの素描(空からの展望)	1928	17.0×19.6	鉛筆・紙	1面		前期
21	カジミール・マレーヴィチ		2点の素描－人物と教会堂	1929	17.0×18.5	鉛筆・紙	1面		後期
22	ナタリア・ゴンチャロワ	1881-1962	婦人半身像	c.1924	36.4×25.1	リトグラフ・紙	1面		
23	ミハイル・ラリオノフ	1881-1964	コンポジション	c.1924	44.8×29.3	リトグラフ・紙	1面		
24	マルク・シャガール	1887-1985	散歩2(夫人のいる自画像)	c.1924	17.4×14.6	エッチング・ドライポイント・紙	1面		前期
25	エル・リシツキー	1890-1941	ブroun：第1ケストナー版画集	1923	60.5×43.5	リトグラフ・カラージュ・紙	8面		
26	エル・リシツキー		太陽の征服	1923	53.2×45.5	リトグラフ・紙	10面のうち 5面		前期 後期
27	アレクサンドル・ロトチェンコ	1891-1956	ドプロレット・ポスター	1923	35.7×45.7	リトグラフ・紙	1面		

第2室 小特集 南薫造

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
28	小林 千古	1870-1911	ミルク・メイド	1897(明治30)	69.0×50.8	油彩・画布	1面	第10回白馬会展	
29	小林 千古		茶器と梅花	1903(明治36)	18.5×65.5	油彩・画布	1面	第10回白馬会展	
30	小林 千古		婦人座像	1904(明治37)	61.0×49.0	油彩・画布	1面	第10回白馬会展	
31	南 薫造	1883-1950	美校一隅	1904(明治37)	45.6×60.6	油彩・画布	1面		
32	南 薫造		花	1906(明治39)	45.5×60.6	油彩・画布	1面		
33	南 薫造		衣裳	1907(明治40)	65.2×50.2	油彩・画布	1面		
34	南 薫造		赤衣の男	1907(明治40)頃	74.3×60.6	油彩・画布	1面		
35	南 薫造		ノースモルトン風景	1908(明治41)	61.0×76.5	油彩・画布	1面		
36	南 薫造		白壁の農家	1908(明治41)	75.5×101.0	油彩・画布	1面		
37	南 薫造		坐せる女	1908(明治41)	112.1×83.3	油彩・画布	1面	第4回文展	
38	南 薫造		ロンドン河畔	1908(明治41)	73.5×91.3	油彩・画布	1面		
39	南 薫造		小童	1909(明治42)	60.5×49.8	油彩・画布	1面		
40	南 薫造		パリ郊外	1909(明治42)	34.0×45.8	油彩・画布	1面		

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
41	南 薫造		冬枯れ	1909(明治42)	31.0×40.7	油彩・板	1面		
42	南 薫造		石割り	1911(明治44)	60.5×45.5	油彩・画布	1面		
43	南 薫造		ピアノ	1921(大正10)	103.0×83.1	油彩・画布	1面	平和記念東京博覧会	
44	南 薫造		台湾風景	1930(昭和5)	40.8×31.8	油彩・板	1面		
45	南 薫造		アトリエからの眺め	不詳	27.0×21.7	油彩・板	1面		
46	南 薫造		少女3	不詳	33.3×24.1	油彩・板	1面		
47	南 薫造		犬吠呷	1940(昭和15)	65.4×80.3	油彩・画布	1面		
48	南 薫造		雪の日	1940(昭和15)	45.0×60.4	油彩・キャンバスボード	1面		
49	南 薫造		水辺2	不詳	37.5×45.8	油彩・板	1面		
50	南 薫造		曝書	1946(昭和21)	65.1×80.3	油彩・画布	1面		
51	南 薫造		瀬戸内風景2	1940年代後半	49.8×60.5	油彩・画布	1面		
52	南 薫造		蒲刈島風景	1949(昭和24)	38.0×45.5	油彩・画布	1面		
53	鬮 光	1907-1946	花	1941(昭和16)頃	23.6×32.8	油彩・板	1面		
54	鬮 光		窓辺の花(百合)	1944(昭和19)	71.0×59.0	油彩・画布	1面		
55	菅井 汲	1919-1996	SOLEIL ET SOLEIL(太陽と太陽)	1968(昭和43)	114.2×192.6	アクリル・画布	1面		
56	菅井 汲		SOLEIL NO BLANC(太陽 白)	1969(昭和44)	150.0×150.0	アクリル・画布	1面		

第3室 築庭400年記念展示 縮景園と近世広島絵画

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
57	狩野派		西湖図	16世紀	137.5×353.6(各)	紙本墨画	6曲1双		前期
58	長澤 蘆雪	1754-1799	林和靖図	1792(寛政4)以後	166.1×369.0(各)	紙本金地墨画	6曲1双	個人蔵	後期
59			十王像	1389(嘉慶3)	冠際高73.7	木造	1軀	縮景園蔵	
60	浅野 綱長	1659-1708	留松鷲図(自賛)	1674(延宝2)	37.4×56.1	絹本墨画淡彩	1幅	明星院蔵	後期
61	浅野 綱長		山水図(自賛)	17世紀	29.1×52.0	絹本墨画	1幅	正伝寺蔵	後期
62	浅野 綱長		山水図(自賛)	17世紀	110.0×42.7	絹本墨画淡彩	1幅	個人蔵	前期
63	浅野 綱長		寿老人図	17世紀	83.9×35.3	絹本彩色	1幅	広島城蔵	後期
64	浅野 綱長		梅庵図(自賛)	17-18世紀	30.3×50.8	絹本彩色	1幅	広島城蔵	後期
65	仲澤藤左衛門		神崎八景図(木下順庵賛)	1683(天和3)	27.6×460.7	絹本彩色	1幅	宮島歴史民俗資料館蔵	前期
66	浅野 重晟	1743-1813	黄蜀葵図(浅野宗恒賛)	1762(宝暦12)以前	26.5×36.2	絹本彩色	1幅	個人蔵	前期
67	浅野 重晟		芙蓉図	18世紀	28.5×22.8	絹本彩色	1幅	個人蔵	前期
68	浅野 重晟		鶴図(自賛)	1773(安永2)	27.0×46.1	絹本彩色	1幅	明星院蔵	後期
69	岡 岷山	1734-1806	仏法僧図(学如賛)	1766(明和3)	99.0×39.0	絹本彩色	1幅		前期
70	岡 岷山		天台山図	1772(明和9)	175.0×375.0(各)	紙本墨画淡彩	6曲1双	明星院蔵	前期
71	岡 岷山		菊蝶図	18世紀	102.5×32.1	絹本彩色	1幅	個人蔵	後期
72	岡 岷山		富士・妙高山図	18世紀	151.6×349.4(各)	紙本墨画淡彩	6曲1双	尾道市立美術館蔵	後期
73	小倉 武駿	?-1839	花籠図	18-19世紀	96.0×43.0	絹本彩色	1幅		後期
74	小倉 武駿		花鳥・富士図	19世紀	169.5×90.0(各)	紙本彩色	表裏4面	個人蔵	前期(花鳥) 後期(富士)
75	佐々木錦江/稿		縮景園山莊図	1801-29(享和元-文政12)	29.0×1254.8(1) 29.0×1404.0(2)	紙本彩色	2巻	個人蔵	
76	澤 三石	1772-1853	紅梅図(自賛)	1822(文政5)	119.2×33.2	絹本墨画淡彩	1幅	個人蔵	後期
77	澤 三石		竹梅詩画	1823(文政6)	134.1×54.0(各)	紙本墨書・墨画	12幅		前期(梅) 後期(竹)
78	澤 三石		墨梅図(自賛)	1842(天保13)	130.0×56.2	絹本墨画	1幅		前期
79	澤 三石		山水図(自賛)	1842(天保13)	137.8×70.2	絹本墨画淡彩	1幅	明星院蔵	前期
80	澤 三石		白梅図	1845(弘化2)	132.8×57.6	絹本墨画	1幅	海田町蔵	後期
81	山野峻峯斎	1784-1852	厩図	1826(文政9)以前	154.8×364.8(各)	紙本彩色	6曲1双	海田町蔵	後期
82	山野峻峯斎		四季耕作図	1826(文政9)以後	155.0×345.0(各)	紙本墨画淡彩	6曲1双	広島城蔵	前期
83	山野峻峯斎		蓬萊図	1826(文政9)以後	97.0×36.0(各)	絹本墨画淡彩	2幅		後期
84	山野峻峯斎		競馬図	1826(文政9)以後	52.0×82.5	絹本彩色	1幅	個人蔵	前期
85	小泉探賞斎	?-1872?	日出五羽鶴図	19世紀	122.2×62.2	絹本彩色	1幅	個人蔵	前期
86	小泉探賞斎		波濤群鶴図	19世紀	154.3×357.4	紙本彩色	6曲1双	明星院蔵	前期
87	山野 勝秀		円窓芙蓉雀図	1862(文久2)以前	51.7×71.7	絹本彩色	1幅	個人蔵	前期
88	小林 月峰	1833?-1888	巖島図	19世紀	42.0×100.0	絹本彩色	2幅	宮島歴史民俗資料館蔵	後期
89	小林 月峰		月波楼真景図(木原桑宅賛)	1861(文久元)以後	33.8×120.2	紙本墨画淡彩	1面	呉市入船山記念館蔵	後期
90	小林 月峰		二河瀧図	19世紀	54.1×84.1	紙本墨画淡彩	1幅	呉市入船山記念館蔵	後期
91	浅野長麿/奉納	1842-1937	能面 童子・黒髭・山姥・瘦男	17-19世紀		木造彩色	4面	広島市指定有形文化財/錦津神社蔵	前期
92	浅野長麿/奉納		能面 長鬚徳見・俊寛・神体・深井	17-19世紀		木造彩色	4面	広島市指定有形文化財/錦津神社蔵	後期
93	高屋 肖哲	1866-1945	泉邸写真図	1928(昭和3)	168.8×181.6(各)	紙本彩色	2曲1双	無量光院蔵(右隻) 明星院蔵(左隻)	

広島の日画家 児玉希望・奥田元宋・平山郁夫

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	頁数	出品歴・備考	展示期間
94	児玉希望	1898-1971	巖島	1957(昭和32)	106.5×173.0	絹本墨画淡彩	1面	個人蔵	
95	奥田元宋	1912-2003	待月	1949(昭和24)	130.4×204.2	紙本彩色	1面		
96	平山郁夫	1930-2009	群像	1957(昭和32)	202.0×158.0	紙本彩色	1面		

第4室 中央アジアの刺繍スザニ #乙嫁たちの手仕事

No.	作者・民族名・地域	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	頁数	出品歴・備考	展示期間
97	ブハラ(現ウズベキスタン)		刺繍布(スザニ)	1826頃	279.0×191.0	木綿・絹糸・羊毛糸・刺繍	1枚	岡山県立美術館蔵	
98	シャフリャブス(現ウズベキスタン)		刺繍布(スザニ)	1850頃	244.0×154.0	木綿・絹糸・刺繍	1枚		
99	スラタまたはシャフリャブス		刺繍布(スザニ)	19世紀中期	244.0×148.0	木綿・絹糸・刺繍	1枚	岡山県立美術館蔵	
100	タシケント(現ウズベキスタン)		刺繍布(スザニ)	19世紀後半	216.0×174.0	木綿・絹糸・刺繍	1枚		
101	ブハラ(現ウズベキスタン)		刺繍布(スザニ)	19世紀後半	245.0×160.0	木綿・絹糸・刺繍	1枚		
102	プスケント		刺繍布(スザニ)	19世紀後半	245.0×206.0	木綿・絹糸・刺繍	1枚	岡山県立美術館蔵	
103	シャフリャブス		刺繍布(スザニ)	19世紀後半	163.0×120.0	木綿・絹糸・刺繍	1枚	岡山県立美術館蔵	
104	プスケント(現ウズベキスタン)		刺繍布(スザニ)	19世紀末	245.0×210.0	木綿・絹糸・刺繍	1枚		
105	フェルガナ盆地		刺繍布(スザニ)	19世紀末	206.0×156.0	(表)絹・絹糸・刺繍 (裏)木綿・プリント	1枚		
106	ブハラ(現ウズベキスタン)		刺繍布(ジャイナマズ)	19世紀末	242.0×162.0	木綿・絹糸・刺繍	1枚		
107	ブハラ(現ウズベキスタン)		刺繍布(スザニ)	1910頃	170.0×134.0	絹・ヴェルヴェット・金糸・刺繍	1枚		
108	スラタ		刺繍布(スザニ)	20世紀初頭	220.0×180.0	木綿・絹糸・羊毛糸・刺繍	1枚	岡山県立美術館蔵	
109	ウズベク人		女性用外衣(チャパン)	19世紀中期～後半	122.5×159.0	経：絹・緯：綿・経緋	1領		
110	ウズベク人		女性用外衣(チャパン)	19世紀後半	125.0×168.0	経：絹・緯：綿・経緋・裏にプリント木綿	1領		
111	トルクメン人		女性用刺繍靴	20世紀	長25.8	革・刺繍	1足		
112	テケ族 トルクメン人		女性用革靴	1900頃	長25.0	革	1足		
113	ウズベク人 ラカイ		刺繍靴	20世紀初頭	12.6×5.6、11.5×13.5	刺繍	1枚		
114	ウズベク人		刺繍靴	19世紀	21.8×25.0	絹刺繍・縁取りに革・裏に絹布	1枚		
115	テケ族 トルクメン人		刺繍靴	19世紀	19.6×11.3	刺繍	1枚		
116	エルサリ族 トルクメン人		刺繍靴	19世紀中期	18.5×13.2	木綿布・絹刺繍	1枚		
117	エルサリ族 トルクメン人		刺繍靴	19世紀中期	15.9×10.2	絹刺繍・裏にプリント木綿	1枚		
118	ウズベク人		刺繍靴	20世紀初頭	19.3×14.8	刺繍	1枚		
119	ヨムート族 トルクメン人		刺繍靴	20世紀初頭	12.7×15.6	刺繍	1枚		
120	ヨムート族 トルクメン人		刺繍靴	20世紀初頭	15.3×10.2	刺繍	1枚		
121	ヨムート族 トルクメン人		刺繍靴	20世紀初頭	15.5×10.2	刺繍	1枚		
122	ヨムート族 トルクメン人		刺繍靴	20世紀初頭	15.5×10.4	刺繍	1枚		
123	西ヨムート族 トルクメン人		護符入れ(トゥマル)	18世紀前半	幅27.0	銀・鍍金・カーネリアン	1点		
124	西ヨムート族 トルクメン人		護符入れ(トゥマル)	18世紀後半	幅27.0	銀・鍍金・カーネリアン	1点		
125	テケ族 トルクメン人		背飾り(アシク)	1806/07 (ヒジュラ暦1221)	高26.5	銀・鍍金・カーネリアン	1枚		
126	ヨムート族 トルクメン人		背飾り(アシク)	19世紀前半	高22.0	銀・鍍金・カーネリアン・革	1枚		
127	テケ族 トルクメン人		鞭(ガムチ)	18-19世紀	長87.0	革・銀	1本		
128	西ヨムート族 トルクメン人		鞭(ガムチ)	19世紀中期	長91.0	革・銀・色ガラス	1本		
129	西ヨムート族 トルクメン人		鞭(ガムチ)	19世紀後半	長98.5	革・銀・鍍金	1本		
130	ジャファバイ・ヨムート族 トルクメン人		鞭(ガムチ)	19世紀後半	長87.0	革・銀・鍍金・カーネリアン・トルコ石	1本		
131	エルサリ族 トルクメン人		鞭(ガムチ)	1897/98 (ヒジュラ暦1315)	長87.0	革・銀・木	1本		
132	森 薫		中央アジアの衣服と布(原画)	2018(平成30)	33.2×24.2(各)	紙・インク・水彩	2枚	広島県立美術館所蔵作品ミニガイド③掲載	

関連事業

(1) スライドトーク

①南薫造 光の表現を追求した画家

日 時：10月10日(土) 15：00～16：00

講 師：藤崎 綾(当館主任学芸員)

参加者：15名

②縮景園と近世広島美術について

日 時：10月24日(土) 15：00～16：00

講 師：隅川 明宏(当館学芸員)

参加者：54名

③柿右衛門様式の伊万里焼について

日 時：11月7日(土) 15:00～16:00

講 師：岡地 智子(当館学芸員)

参加者：24人

①～③ 場所：地階講堂

(2) スザニ刺繍ワークショップ

日 時：①9月19日(土) 13:00～15:00(モニター)

②10月3日(土) 13:00～15:00(モニター)

③11月21日(土) 13:30～16:30

④11月28日(土) 13:30～15:30

講 師：福田 浩子(当館学芸課長)

場 所：①②③大会議室 ④ オンライン(zoom)

参加者：①②4人 ③④9人

(3) 対話型鑑賞会

日 時：①10月24日(土) 14:00～15:00(モニター)

②11月22日(日) 13:00～14:00

③12月12日(土) 14:00～15:00

場 所：②2階展示室 ①③ オンライン(zoom)

ナビゲーター：森 万由子(当館学芸員)、岡地 智子(当館学芸員)

参加者：①5人 ②8人 ③7人

(4) インスタギャラリートーク

①中央アジアの刺繍～スザニ #乙嫁たちの手仕事

日 時：11月9日(月)、12月7日(月) 各日17:00～

講 師：福田 浩子(当館学芸課長)

参加者：計260人

②ロシア・アヴァンギャルド

日 時：12月15日(火) 17:00～

講 師：森 万由子(当館学芸員)

参加者：48人

冬の所蔵作品展

新収蔵作品を中心に

令和3年1月2日(土)～4月25日(日)※会期延長

前期：1月2日(土)～2月21日(日)

後期：2月23日(火)～4月25日(日)

彫刻展示スペース — 広島彫刻 —

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
1	中谷 勲古	1868-1937	題目踊	1922(大正11)	高98.0×38.2×34.8	木彫・彩色	1体		
2	平櫛 田中	1872-1979	五柳先生	1960(昭和35)	高51.8	木彫・彩色	1体		
3	圓鏝 勝三	1905-2003	道化師	1979(昭和54)	高72.0×21.0×43.0	木彫・彩色	1体	第10回新日展 内閣総理大臣賞	
4	水船 六洲	1912-1980	燭明り	1967(昭和42)	高202.0×54.0×40.0	木彫・彩色	1体		
5	芥川 永	1915-1998	もどれない風(太田川2)	1974(昭和49)	高34.0×42.0×11.0	ブロンズ	1体	第38回新制作協会展	
6	今城 国忠	1916-2000	道標	1966(昭和41)	高192.0×65.0×50.0	木彫	1体	第9回新日展	
7	吉田 正浪	1936-2011	立像	1977(昭和52)	高183.0×50.0×46.0	石膏	1体		
8	小平 胖可	1944-2003	卯月飛騨	1998(平成10)	高162.0×58.0×32.0	樹脂	1体	第74回白日会展	
9	奥田 秀樹	1950-	演奏者	1989(平成元)	高200.0	テラコッタ・鉄・木	1体	ヒロシマアートグラント奨励賞 広島国際文化財団奨励賞	

第1室 西洋美術と文学

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
10	アリストテイド・マイヨール	1861-1944	ウェルギリウスの農耕歌	1937-1944 1950出版	33.7×25.3	木版・紙・挿画本	1冊		
11	アリストテイド・マイヨール	1861-1944	ウェルギリウスの農耕歌	1937-1944 1950出版	33.7×25.3	木版・紙	14面のうち 10面		前期 後期
12	ジョルジュ・ルオー	1871-1958	受難(パッション)	1935-1936 1939発刊	45.5×35.0	木口木版・紙・挿画本	1冊		
13	ジョルジュ・ルオー	1871-1958	受難(パッション)	1935-1936 1939発刊	45.5×34.5	多色刷り銅版・紙	17面のうち 6面		前期 後期
14	フランシス・ピカビア	1879-1953	アンピトリテ	1935頃	92.0×73.5	油彩・画布	1面		
15	ジャン(ハンス)・アルプ	1886-1966	目覚め	1938/83	高47.5×24.0×23.0	ブロンズ	1点		
16	ジョルジョ・デ・キリコ	1888-1978	オレステスとピュラデス	1924	28.9×20.0	リトグラフ・紙	1面		前期
17	マン・レイ	1890-1976	覚めて見る夢の会	1924	20.6×28.7	ゼラチン・シルバー・プリント	1面		
18	マン・レイ	1890-1976	解舞台の上でミシンとこうもり傘が 偶然出会ったように美しい	1933	24.9×37.8	ゼラチン・シルバー・プリント	1面		前期
19	マックス・エルンスト	1891-1976	博物誌	1926	43.0×26.0	コロタイプ・紙	34面のうち 4面(前期) 5面(後期)		前期 後期
20	マックス・エルンスト	1891-1976	オイディプス I	1934(1992鑄造)	高さ62.0	ブロンズ	1点		
21	マックス・エルンスト	1891-1976	オイディプス II	1934(1992鑄造)	高さ66.0	ブロンズ	1点		
22	ジョージ・グロス	1893-1959	群盗	1922	70.0×51.0	リトグラフ・紙	9面のうち 3面		前期 後期
23	アレクサンダー・コルター	1898-1976	ヴァーティカル・ホワイト・フレーム	1936	高さ265.4	金属・ワイヤー・パネ・木	1点		
24	ルネ・マグリット	1898-1967	人間嫌いだち	1942	54.0×73.0	油彩・画布	1面		
25	サルバドール・ダリ	1904-1989	マルドロールの歌	1934	32.5×25.0	エッチング・紙・挿画本	1冊		
26	サルバドール・ダリ	1904-1989	マルドロールの歌	1934	32.5×25.0	エッチング・紙	30面のうち 4面		前期 後期
27	サルバドール・ダリ	1904-1989	ヴィーナスの夢	1939	243.8×487.6	油彩・画布・パネル	1面	ニューヨーク万国博覧会	

第2室 こんなこともしています、美術館 3

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
28	小林 千古	1870-1911	静物画	不詳	37.5×47.0	油彩・画布	1面		
29	小林 千古	1870-1911	茶器と梅花	1903(明治36)	18.5×65.5	油彩・画布	1面	第10回白馬会展	
30	小林 千古	1870-1911	華厳の滝	1906(明治39)	60.8×41.0	油彩・画布	1面	第10回白馬会展	
31	南 薫造	1883-1950	西洋婦人(C)	不詳	90.0×60.0	油彩・画布	1面		
32	小林徳三郎	1884-1949	西瓜	1932(昭和7)	45.5×53.0	油彩・画布	1面	第27回春陽会展	
33	神田 周三	1894-1972	里の花売りの母子	1931(昭和6)	162.1×130.3	油彩・画布	1面	第12回帝展入選作品	
34	名井 萬亀	1896-1976	郊外電車	1953(昭和28)	40.8×52.8	油彩・画布	1面	個展 (53タケミヤ画廊)	
35	山路 商	1903-1944	ピエロ	不詳	33.8×24.6	油彩・紙	1面		
36	井上長三郎	1906-1995	屠殺場	1936(昭和11)	203.0×270.0	油彩・画布	1面	第6回独立展	
37	巖 光	1907-1946	風景	1944(昭和19)	41.0×52.5	油彩・画布	1面		
38	金光 松美	1922-1992	Mt. WHITNEY	1976(昭和51)	112.0×243.9	油彩・画布	1面		
39	横山 大観	1868-1958	井筒	1897(明治30)	135.6×83.5	絹本彩色	1面		
40	兎玉 希望	1898-1971	七面鳥	1938(昭和13)	137.0×144.0	絹本彩色	1面	第2回新文展	
41	和高 節二	1898-1990	田植時	1929(昭和4)	106.0×147.0	紙本彩色	1面	第10回中央美術社展	
42	奥田 元宗	1912-2003	秋辯真如	1977(昭和52)	156.5×197.5	紙本彩色	1面	第9回改組日展	

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
43	平山 郁夫	1930-2009	みのり	1961(昭和36)	178.0×86.0	紙本彩色	1面	第16回春の院展	

第3室 新収蔵作品

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
44	太田 忠	1908-1971	備後の風景	1951(昭和26)頃	31.8×41.0	油彩・画布	1面		
45	佐々田憲一郎	1899-1995	鞆港	1949(昭和24)	37.8×45.7	油彩・画布	1面		
46	佐々田憲一郎		駅前風景	1950年代頃	37.8×45.7	油彩・画布	1面		
47	佐々田憲一郎		スケッチブック	1950年代頃	24.7×33.0	鉛筆・彩色・紙	1面		
48	名井 萬亀	1896-1976	風景	1943(昭和18)	33.0×45.0	油彩・画布	1面		
49	名井 萬亀		いのち	1946(昭和21)	60.8×46.2	油彩・画布	1面		
50	岡部 繁夫	1912-1969	静物	不詳	40.4×32.0	油彩・画布	1面		
51	岡部 繁夫		楽園	1941(昭和16)	53.1×45.1	油彩・画布	1面		
52	岡部 繁夫		森	1945(昭和20)頃	112.4×145.4	油彩・画布	1面		
53	岡部 繁夫		カンナとけいとう	1948(昭和23)頃	97.4×146.0	油彩・画布	1面		
54	岡部 繁夫		春の饗宴	1950(昭和25)	96.9×145.5	油彩・画布	1面		
55	岡部 繁夫		作品KRX	1967(昭和42)頃	181.4×192.2	油彩・画布	1面		
56	菅井 汲	1919-1996	円(CERCLE)	不詳	199.0×196.0	油彩・画布	1面		
57	菅井 汲		マッス・グレー(MASSE GRIS)	1989(平成元)	200.0×150.0	油彩・画布	1面		
58	菅井 汲		黄と黒(JAUNE ET NOIR)	1968(昭和43)	229.0×155.0	油彩・画布	1面		
59	菅井 汲		フェスティバル'70 (FESTIVAL'70)	1970(昭和45)	248.3×199.7	油彩・画布	1面		
60	平田 周子	1912-2004	金魚鉢	不詳	54.0×76.0	紙本彩色	1面		
61	児玉 希望	1898-1971	富士 大瀬崎より望む	昭和30年代後半~40年代	50.5×57.5	絹本彩色	1面		
62	福田 恵一	1895-1956	使命	1925(大正14)	222.0×362.0	絹本彩色	1面	堺市博物館蔵	
63	今井 政之	1930-	蝦蛄 花壺	1963(昭和38)	高51.0 径25.0	陶器	1口		
64	今井 政之		苔泥彩「中東想」	1969(昭和44)	高59.0 径25.0	陶器	1口		

第4室 広島県の工芸

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
65	初代藤本陶津	1875-1967	碧耀彩花瓶	1956(昭和31)	16.0×24.0	陶器	1口		
66	二代藤本陶津	1914-2009	器「泥彩」	1968(昭和43)	20.0×60.0	陶器	1口	第11回日展	
67	川原 繁夫	1912-1983	花器「彩河」	1969(昭和44)	41.0×30.0	陶器	1口		
68	西本 瑛泉	1928-	縄文真如	1982(昭和57)	高28.0 口径35.0	陶器	1口		
69	皿谷緋佐子	1926-	野菜文壺	1975(昭和50)	37.8×39.0	陶器	1口		
70	古庵千恵子	1933-	裳	1976(昭和51)	高50.0 33.0×38.0	陶器	1口		
71	今井 政之	1930-	苔泥彩漕花壺	1975(昭和50)	高42.7 口径9.9	陶器	1口		
72	今井 政之		象嵌彩窯変ざざみ香炉	2001(平成13)	高12.0 胴径14.5	陶器	1合		
73	木村 芳郎	1946-	碧釉組鉢	1984(昭和59)	(大)高10.2 径30.5 (小)高6.5 径18.3	半磁器	1組	第31回日本伝統工芸展 奨励賞	
74	六角 紫水	1867-1950	理想界の因蒔絵手箱	1929(昭和4)	高9.5 35.1×26.0	木・漆・蒔絵	1合	第10回帝展	
75	六角 紫水		刀筆銀文叢竹の因硯箱	1929(昭和4)	高4.8 24.2×18.5	木・漆・蒔絵・平文	1合	第10回帝展	
76	三代金城一国斎	1829-1915	白蓮花に蝶高盛絵角盆	1905(明治38)	高35.5×35.5	木・漆・高盛絵	1枚		前期
77	五代金城一国斎	1906-1991	高盛絵四季寄花硯箱	1980(昭和55)	高4.7 27.0×23.0	木・漆・高盛絵	1合		後期
78	鯉城 政廣		高塗果蟲菓子盆	不詳	高2.5 径34.2	木・漆・高盛絵	1枚		
79	高中 惣六	1900-1974	乾漆菓子器	1971(昭和46)	高8.0 径26.0	漆・乾漆・螺鈿	1口	第18回日本伝統工芸展	
80	高中 隆司	1926-2012	乾漆果物盛器	1949(昭和24)	高12.2 径33.2	漆・乾漆・螺鈿	1口	第1回広島県美術展 広島県知事賞	
81	小松初代寿山	1902-1991	黒檀拭漆盆	1978(昭和53)	高さ6.5 径40.5	黒檀・挽物	1枚		
82	小松二代寿山	1929-	松丸盆	1980(昭和55)	高4.0 径45.0	松・挽物	1枚	第27回日本伝統工芸展	
83	小林健一郎	1924-2013	櫻丸盆	1987(昭和62)	高4.2 径40.0	櫻・挽物	1枚	第34回日本伝統工芸展	
84	山根 寛齋	1933-2010	玉椿全彩箱	1990(平成2)	高18.6 31.0×15.2	玉椿・神代櫻・朴・黄楊木・葉・木画	1合	第37回日本伝統工芸展・ 日本工芸会奨励賞	
85	門田 篁玉	1916-	変形広口花器	1979(昭和54)	高36.0 40.5×25.5	竹	1口	第1回日本新工芸展 受賞作	
86	奥田小由女	1936-	孤愁	1975(昭和50)	33.5×82.0×44.5	木・桐粉・胡粉	1体	第7回改組日展	
87	奥田小由女		天翔ける賛歌	1989(平成元)	193.0×1245.0	木・桐粉・胡粉	1面	広島県蔵	
88	花房 花子	1908-1999	紅象	1966(昭和41)	135.0×92.0	染・額装	1面		
89	杉谷 富代	1927-2012	滞船	1969(昭和44)	166.0×96.0	染・額装	1面		
90	藤川 素子	1931-	流転	1980(昭和55)	220.0×181.0	染・ビロード・額装	1面		
91	山下 了是	1946-	釣山涼々	1979(昭和54)	180.0×170.0	染・額装	1面		

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
92	清水 南山	1875-1948	花卉文壺	1926(大正15)	高16.0 径12.2	銅・彫金	1口		
93	林 万寿人	1896-1985	鍍銅結び紐文花器	1956(昭和31)	31.0×29.0	青銅・鍍金	1口	第12回日展	
94	伊藤 顕	1936-1969	種子	1966(昭和41)	168.0×110.0	銅・鍛金	1点	第9回新日展	
95	粟根昭二郎	1927-	七宝菓子器「游」	1979(昭和54)	17.0×6.5	七宝	1合	第26回日本伝統工芸展	
96	高橋 通子	1936-	紫陽花文花瓶	1984(昭和59)	15.7×15.5	七宝	1口	第31回日本伝統工芸展	
97			重要文化財 伊万里色絵花卉文輪花鉢 (柿右衛門様式)	江戸時代	17世紀後半	高11.5 口径24.4	磁器・色絵	1口	
98			伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代	17世紀後半	高44.3	磁器・色絵	1軀	
99			伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代	17世紀後半	高45.0	磁器・色絵	1軀	

関連事業

(1) オンライン(zoom)対話型鑑賞

日 時：1月16日(土)、3月20日(土) 各日14:00~15:00

ナビゲーター：森 万由子(当館学芸員)、岡地 智子(当館学芸員)

参加者：計16人

(2) インスタギャラリートーク

①こんなこともしています、美術館3

日 時：1月13日(水) 17:00~

講 師：角田 新(当館主任学芸員)

②新収蔵品紹介

日 時：2月10日(水) 17:00~

講 師：福田 浩子(当館学芸課長)、角田 新(当館主任学芸員)、神内 有理(当館主任学芸員)

参加者：①65人 ②67人

ミニガイドの発行

『広島県立美術館 所蔵作品ミニガイド⑫平山郁夫 救済への道』、『広島県立美術館 所蔵作品ミニガイド⑬南 薫 造光の表現を追求した画家』、『広島県立美術館 所蔵作品ミニガイド⑭柿右衛門様式 海を渡った日本の磁器』、『築庭400年記念展示 縮景園と近世広島絵画』を作成(計4冊)、来館者に無料配布

広報実績

(1) テレビ

4/24 テレビ西日本『もち浜S特報ライブ』内ニュース(エア美術館「広がる#エア美術館」)

4/28 TBS『Nスタ』(エア美術館、なりきり美術館)

4/28 RCC『イマナマ』(エア美術館、なりきり美術館)

(2) 新聞

・中国新聞

3/27 エア美術館

・毎日新聞

4/13 「アートの扉 広島県立美術館編1 女性用刺繍靴」(夕刊：東京・中部・西日本版)(8/29広島版)

4/27 「アートの扉 広島県立美術館編2 刺繍布(スザニ)」(夕刊：東京・中部・西日本版)(9/5広島版)

5/18 「アートの扉 広島県立美術館編3 女性用コート(チャパン)」(夕刊：東京・中部・西日本版)(9/12広島版)

6/1 「アートの扉 広島県立美術館編4 護符入れ(トゥマル)」(夕刊：東京・中部・西日本版)(9/19広島版)

6/15 「アートの扉 広島県立美術館編5 女性用被衣(チルピ)」(夕刊：東京・中部・西日本版)(9/26広島版)

6/29 「アートの扉 広島県立美術館編6 刺繍袋」(夕刊：東京・中部・西日本版)(10/3広島版)

(3) 雑誌

『おとな旅プレミアム』、『日経おとな』、『Cue』5月1日~(エア美術館 展覧会をバーチャルで)、『Wink』6月号(エア美術館 ウィンク編集部が気になる旬ネタコーナー)、『Tj hiroshima』7月号(夏の所蔵)、『to you』7月号(夏の所蔵)、『ぐるまちリーフレット』夏号(夏の所蔵)、『経済レポート』7月号(夏の所蔵)、『経済春秋』7月号(夏の所蔵)、『ウェンディ』11月号(秋の所蔵)、『瀬戸マーレ』秋号(秋の所蔵)、『くれえばん』1月号(冬の所蔵)、『地域創造レター』3月25日号(エア美術館)

(4) Web

「JA共済連 美術のミカタ」、「インターネットミュージアム」7月～(夏の所蔵)、「ジャパンテキスタイル」9月～(秋の所蔵)、「広島県観光連盟」(各所蔵)、「広島県観光連盟」4月～(エア美術館)、「広島経済新聞」5月9日～(広島で「エア美術館」)

(5) その他

11/23 広島交響楽団プログラム(秋の所蔵)

Ⅲ 普及活動

1 第8回新県美展（第72回広島県美術展）

本展は「広く県民から美術作品を公募し、優れた作品を展示することにより、創作活動の振興を図るとともに、鑑賞の機会を提供し、もって芸術文化の向上に資すること」を目的に、昭和24年以来開催している。平成25年度には、より広く県民が参加できる美術展をめざして、新たに映像系部門を加え、また、入館者人気大賞を実施するなどの見直しを行い、「新県美展」としてリニューアルした。

本年度より、県内の児童・生徒の美術力(感じる力、考える力、みる・かく・つくる力)の向上を図ることを目的として、平成24年度から令和元年度まで開催していた公募展「広島県ジュニア美術展」を、新県美展ジュニア部門として同時開催することとし、令和2(2020)年6月13日(土)～28日(日)の開催を予定し、準備を進めていた。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、同年3月7日(土)より当館が臨時休館となり、再開時期の見通しが立たなかったこと、および作品受付時や審査時のリスクを考慮し、感染拡大抑制の観点から、本年度の開催を中止することとした。

中止に伴い、引き続き創作活動を奨励するとともに、美術鑑賞の機会を提供する観点から、出品に向けすでに創作された作品等を対象に、インターネットを活用して美術作品を公募し、優れた作品を公開する「広島県Web公募美術展」を開催した(主催：広島県／共催：中国新聞社・広島県教育委員会／6月22日(月)～7月31日(金))。応募点数、入選数は以下の通り。なお、デジタルデータにより審査を行うため、入賞作品の決定は行わないこととした。

種目	絵画 (一般)	絵画 (ジュニア)	彫塑	工芸	書	デザイン (一般)	デザイン (ジュニア)	合計
応募点数	132	56	5	33	54	12	10	302
入選点数	96	33	2	20	35	8	6	200

2 博物館実習

大学及び短期大学における博物館学講座の単位習得の一環として、博物館学を履修する学生を一時的に受け入れ、博物館現場における知識及び技能を修得させることにより、人材の育成を図ることを目的として例年実施している。しかし、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、実施自体を再考したが、受け入れは県立美術館として責務であるとの考えにより、県内大学に絞って募集を行った（県をまたぐ移動の抑制のため）。各校に対しては、文化庁企画調整課博物館振興室より各大学宛に出された「令和2年度における学芸員養成課程に係る博物館実習の実施に当たっての留意事項について」に基づき、健康管理に留意することを徹底するよう伝えた上で開設の運びとなった。開設日時とカリキュラム、および受入大学は次のとおり。

(実習担当者：神内 有理)

開設日時と内容

8月24日(月)	9：30～10：00	開講あいさつ・オリエンテーション
	10：00～11：00	見学①「所蔵作品展」(展示替え作業含む)
	11：00～12：00	見学② 館内
	13：00～14：00	講座①「美術館と学芸活動」
	14：00～15：00	ギャラリートーク実習① 概論
	15：00～16：00	講座② 対話型鑑賞(講義と実践)
8月25日(火)	9：30～10：00	館長講話
	10：00～11：00	講座③「総務(全般・予算・広報)・施設管理について」
	11：00～12：00	作品取扱い実習・調書作成①(日本洋画)
	13：00～14：00	作品取扱い実習・調書作成②(日本画)
	14：00～15：00	講座④「美術館の展示環境・展示手法」
	15：00～16：00	見学③「特別展」(写真展)
8月26日(水)	9：30～12：00	作品取扱い実習・調書作成③(工芸作品)
	13：00～16：00	ギャラリートーク実習②(企画立案・実地見学)
8月27日(木)	9：30～12：00	ギャラリートーク実習③(企画立案)
	13：00～16：00	ギャラリートーク実習④(集約・制作)
8月28日(金)	9：30～12：00	ギャラリートーク実習⑤(発表準備)
	15：00～16：00	振り返り

受講生所属大学

県立広島大学、広島市立大学、広島大学、比治山大学、安田女子大学、広島女学院大学(6大学、計12名)

講座

今年度は新たに、「対話型鑑賞(講義と実践)」と「総務(全般・予算・広報)・施設管理について」という2つの講座を新設。

ギャラリートーク実習

メインカリキュラムは、前年度から新しく始まった「ギャラリートーク実習」を引き継ぎ、所蔵作品展で展示中の作品の中から対象作品を選定し、模擬的なギャラリートークを実施した。受講生は3班に分かれ、グループワークにより、各班で対象者、作品、対象者に合わせたトーク内容、ギャラリートーク全体のテーマを決定。各班ともにそれぞれ違った視点によるテーマ設定が行われ、充実した内容となっていた。各班のテーマ、対象者、作品は次のとおり。

①	視線の先には……？ 小林千古《ミルク・メイド》、南薫造《坐せる女》、マックス・ベックマン《ヤール・マルクト》、寺田政明《さかな(悲哀)》
②	人間のかたち 平山郁夫《ひととき(憩)》、南薫造《坐せる女》、パウル・クレー《内なる光に照らされた聖人》、パブロ・ピカソ《フランコの夢と嘘》
③	絵画の気持ち 小林千古《ミルク・メイド》、平山郁夫《家路》、南薫造《坐せる女》

3 学校・地域との連携事業

所蔵作品や鑑賞補助教材を活用した授業や講座を出張して行うことにより、学校や地域における美術鑑賞活動を支援し、美術館と学校や地域との相互交流を促進する。

出張講座

本講座は、県立美術館の学芸職員が公民館や生涯学習センター、学校などに出向き、スライドなど鑑賞補助教材を用いて行うもので次の2つのコースを設定した。

A コレクション・トーク 当館所蔵作品や地域文化などをテーマに行う講座（14講座）

B 特別展のためのとくべつ講座 当該年度に開催する特別展を紹介する講座（3講座）

令和2年度における実施状況は次表のとおりで、地域や学校における美術鑑賞活動を支援するとともに、特別展を普及広報し、美術館への関心や親しみを醸成した。

No.	開催日			会 場	講師	講座タイトル	参加 (人)
	月	日	曜				
1	9	24	木	広島市立江波小学校	岡地	広島がはぐくんだ伝統工芸「高盛絵」	101
2	12	8	火	広島市立東浄小学校	藤崎	絵の探検 ミナミさんの絵の秘密	54
3	2	18	木	廿日市市平良市民センター	隅川	名勝縮景園の歴史と美意識	30

(全3会場／参加合計185人)

4 鑑賞支援制作物

(1) ワークシート

来館者の鑑賞を支援するため、おおむね小学校高学年以上を対象とした所蔵作品のワークシートを作成している。令和2年度は新たに2種類を作成し、合わせて335種となった。

No.	所蔵作品番号	作者名	作品名	制作年	材質・技法
1	HA-401	今井 政之	苔泥彩「中東想」	1969（昭和44）	陶器
2	HA-156	荒木 高子	砂の聖書	1983（昭和58）	陶・シャモット・砂

作例



(2) ミニガイド

来館者の鑑賞を支援するため、所蔵作品のミニガイドブック（16頁）を作成し、無料配布している。令和2年度は新たに3種類を作成し、合わせて14種となった。また、所蔵作品展の小特集に関連したミニガイドブックも1種作成した。

No.	ミニガイド番号	冊子名
1	12	「平山郁夫 救済への道」
2	13	「南 薫造 光の表現を追求した画家」
3	14	「柿右衛門様式 海を渡った日本の磁器」
4	—	「築庭400年記念展示 縮景園と近世広島の絵画」

作例



5 学校等による利用状況

令和2年4月1日～令和3年3月31日までの利用状況（団体申込による）は、次のとおり。

概要

区分（団体・区域）		団体数	人数	引率等	総人数	
1	小学校	(1)市内	1団体	91	4	95
		(2)県内	1団体	44	3	47
		(3)県外	－	－	－	－
2	中学校	(1)市内	2団体	194	11	205
		(2)県内	2団体	33	7	40
		(3)県外	1団体	11	2	13
3	高等学校	(1)市内	2団体	85	4	89
		(2)県内	－	－	－	－
		(3)県外	2団体	19	2	21
4	その他	(1)市内	6団体	124	11	135
		(2)県内	－	－	－	－
		(3)県外	－	－	－	－
合計		17団体	601	44	645	

詳細

団体	区域	利用年月日	人数	引率等	総人数	利用目的	対応	
1	尾道市立御調中央小学校	(2)県内	9月23日	44	3	47	所	
	広島市立宇品小学校	(1)市内	3月9日	91	4	95	所	
2	京丹後市立丹後中学校	(3)県外	9月27日	11	2	13	所	
	三次市立吉舎中学校	(2)県内	10月11日	19	3	22	特・所	
	ノートルダム清心中学校	(1)市内	10月23日	179	10	189	特・所・縮	
	広島市立瀬野川東中学校	(1)市内	3月13日	15	1	16	所	
	北広島町立大朝中学校	(2)県内	3月17日	14	4	18	所	
3	名古屋市立緑高等学校	(3)県外	10月8日	7	1	8	所	班別行動
	名古屋市立緑高等学校	(3)県外	10月9日	12	1	13	特・所	クラス別行動
	広島市立基町高校	(1)市内	10月21日	38	3	41	特・所	
	ヒューマンキャンパス高等学校	(1)市内	10月27日	47	1	48	特・所	
4	広島インターナショナルスクール	(1)市内	9月17日	11	1	12	所	
	小井出ファッションビューティー専門学校	(1)市内	11月6日	46	2	48	特	スライドトーク参加
	安田女子大学	(1)市内	11月14日	16	1	17	特	
	小井出ファッションビューティー専門学校	(1)市内	11月19日	19	0	19	特	
	小井出ファッションビューティー専門学校	(1)市内	11月25日	24	2	26	特	
	広島県立広島特別支援学校	(1)市内	11月25日	8	5	13	所・縮	

※ 利用目的について、「特」は特別展、「所」は所蔵作品展、「縮」は縮景園の利用を表す。

6 県民ギャラリー利用状況

令和2年3月30日～令和3年4月5日までの利用状況は、次のとおり。

利用団体		延べ開催日数	延べ入場者数
入場有料	1 団体	6日	1,710人
入場無料	57 団体	333日	37,836人
計	58 団体	339日	39,546人

利用団体一覧表

展覧会名	会期	展示室	内 容	出品点数	入場料金	入場者数
第83回 自由美術展	3/30～4/6	1 2 3 4 5	絵画	108点	無料	322人
第62回 新協展	7/6～7/13	1 2 3 5	絵画、工芸	129点	一般 600円 高大生 500円 中学生以下無料	1,710人
広島光風会展	7/13～7/20	2 3 4	絵画、工芸	43点	無料	1,004人
第52回 黄人展	8/3～8/10	2 3	絵画、彫塑	61点	無料	595人
第17回 むいち会展	8/3～8/10	4	絵画	35点	無料	481人
第19回 凜の会展	8/3～8/10	5	絵画	40点	無料	503人
心書倶楽部展	8/10～8/17	2 3	書	146点	無料	357人
日洋会広島県支部展	8/17～8/24	2 3	絵画	43点	無料	708人
第48回 広島彫刻会展	8/24～8/31	1	彫塑	18点	無料	403人
第35回 広島市立基町高等学校美術部・創造表現コース卒業生による 桐美会展	8/24～8/31	2	絵画、工芸、写真、他(版画、CG、イラスト、漫画)	53点	無料	688人
第55回 グループいしがき展	8/24～8/31	4 5	絵画	86点	無料	802人
東光会広島支部展	8/31～9/7	2 3	絵画	42点	無料	628人
北大路雅陶鑑賞会	9/7～9/14	1	工芸、書	312点	無料	222人
第51回 広島医家芸術展	9/7～9/14	5	絵画、彫塑、工芸、書、写真、他(音楽)	56点	無料	268人
広島青年会議所創立70周年記念事業 One Hiroshima～みんなで描く、まちの未来～	9/14～9/21	1 2 3 4 5	絵画、写真	5,300点	無料	941人
第5回アルファフォトクラブ写真展	9/21～9/28	2	写真	52点	無料	578人
Image photograph 2020 (写真展)	9/21～9/28	3	写真、他(屏風)	61点	無料	675人
第39回 互の会日本画展	9/21～9/28	4	絵画	45点	無料	589人
第32回 クロッキー同好会 人物素描展	9/21～9/28	5	絵画	70点	無料	249人
第37回 産経国際書展瀬戸内展	9/28～10/5	1 2 3 4 5	書	289点	無料	652人
日本風景写真協会広島第二支部第二回展	10/5～10/12	2	写真	39点	無料	837人
第16回 新展国際公募展	10/5～10/12	3	絵画、書、写真	29点	無料	652人
光陽会広島支部展 第50回渦展	10/5～10/12	4 5	絵画	88点	無料	719人
けんみん文化祭ひろしま'20伝統工芸の祭典	10/12～10/19	1 2 3 4 5	工芸、写真、他(パネル、リーフレット等)	302点	無料	456人
一般社団法人二科会写真部広島支部第42回 支部公募展	10/19～10/26	2 3 4 5	写真	340点	無料	1,479人
あいサポートアート展	10/26～11/2	1 2 3 4 5	絵画、工芸、書、他(立体造形、陶芸、版画)	372点	無料	1,626人
第44回 広島県高等学校総合文化祭 第52回 広島県高等学校美術・工芸展(中央展)	11/2～11/9	1 2 3 4 5	絵画、彫塑、工芸、他(映像)	376点	無料	898人
第44回 広島県高等学校総合文化祭 第52回 広島県高等学校総合文化祭書道展	11/9～11/16	1 2 3 4 5	書	229点	無料	683人

展 覧 会 名	会 期	展 示 室	内 容	出 品 点 数	入 場 料 金	入 場 者 数
第5回 ポーダレスアート展	11/16～11/23	2	絵画、写真、他(立体、テキスト スタイル)	52点	無料	473人
2020全日本写真連盟広島本部展 第80回 国際写真サロン展 第20回 広島県本部展 第23回 朝日写真サロン中国展	11/16～11/23	3 4 5	写真	404点	無料	904人
第29回 ぐるーぶNAN作品展	11/23～11/30	1	絵画	49点	無料	404人
第4回 広島国際芸術交流展 併催：馬仁武来日30周年記念展	11/23～11/30	2 3	絵画、工芸、書	200点	無料	1,031人
広島Y M C A 学園2020生徒作品展 「美術教室」	11/23～11/30	4	絵画、他(立体)	353点	無料	313人
京都造形芸術大学 第16回歩展	11/30～12/7	1	絵画、工芸	35点	無料	308人
大上力夫展	11/30～12/7	2	絵画	28点	無料	357人
元陽会広島 上野教室	11/30～12/7	3	絵画	58点	無料	696人
ペタルス2020 絵画展	11/30～12/7	4	絵画	60点	無料	327人
第29回 波の会展	12/7～12/14	1 2 3 4 5	絵画	168点	無料	1,034人
広がる書と写真の世界	12/14～12/21	1	書、写真	51点	無料	221人
第64回 三師会展	12/14～12/21	2	絵画	47点	無料	304人
第3回 日本水彩出品作家 彩遊会展	12/14～12/21	3	絵画	31点	無料	373人
被爆75年 ひろしまから世界へ 復興の歩みと平和へのメッセージ	12/14～12/21	4	他(パネル、レター、映像)	31点	無料	164人
第17回 フォルマーレ展	12/14～12/21	5	絵画	41点	無料	323人
第29回 広島県シルバー作品展 ※展覧会中止。撮影場所としての利用のため入場者数は無し。	1/18～1/25	1 2 3 4 5	絵画、彫塑、工芸、書、写真	266点	無料	0人
広島二紀展	1/25～2/1	2 3 4 5	絵画	57点	無料	1,364人
広島二科合同展	2/1～2/8	2 3 4 5	絵画、彫塑、写真、他(デザイン)	209点	無料	1,356人
令和2年度 広島県立熊野高等学校 芸術類型 美術コース・書道コース 卒業作品展	2/8～2/15	1 2	絵画、彫塑、書、他(パネル、 デザイン、クリアファイル)	104点	無料	1,014人
新協美術会 広島グループ展	2/8～2/15	5	絵画、工芸	23点	無料	501人
第10回広島県水墨作家協会展	2/15～2/22	5	絵画、書	44点	無料	590人
第52回 安田女子大学書道学科 卒業制作展 併催 安田女子大学書道学科展 安田学園小・中・高等学校書道展 併催 安田女子大学書道学科行事作品展	2/22～3/1	1 2 3 4 5	書	448	無料	1,219人
第69回 書の友全国書道展覧会	3/1～3/8	1 2 3 4 5	書	2,728点	無料	1,825人
第54回・55回 ひろしま美術研究所 展	3/8～3/15	4 5	絵画、工芸、他(臨床美術)	230点	無料	395人
西尾 裕 個展	3/15～3/22	2	絵画	13点	無料	313人
広島芸術学会 芸術展示〈制作と思考〉 第12回展	3/15～3/22	4 5	絵画、彫塑、写真	25点	無料	404人
第32回 広島日展会展	3/22～3/29	1 2 3 4 5	絵画、彫塑、工芸、書	107点	無料	1,817人
第5回 記念 つかさアートクラブ 絵画作品展	3/29～4/5	1 2	絵画、他(デザイン)	160点	無料	839人
第49回 合同美術展	3/29～4/5	3 4	絵画、工芸、書、写真、他(つ まみ絵)	97点	無料	444人
黒木ゆり 住井ますみ 二人展	3/29～4/5	5	絵画	24点	無料	508人

7 友の会事業報告

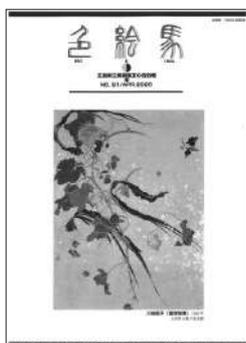
「すぐれた美術作品に接し、それを鑑賞する楽しさを分かち合いながら、自分自身を高めてゆく」ことを目的に昭和47年1月21日に発足した。平成3年から平成8年までの新館工事中は会自体が休止状態にあったが、リニューアルオープンを機に友の会もボランティアで運営する新しい組織となり、会員相互の親睦と美術館の事業にも協力・支援することを目的として、平成9年4月1日付けで再出発した。

会員数 690人(個人481人 家族190人 学生7人 賛助10人 特別賛助2人)

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴い、友の会事業は必要最小限の活動となった。

(1) 会報の発行

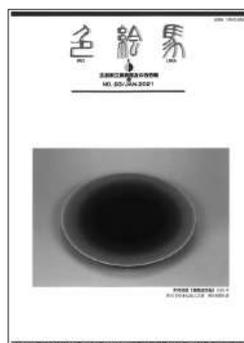
- ・発行 91号、92号、93号
- ・配布先 会員、美術館等



『色絵馬』No.91



『色絵馬』No.92



『色絵馬』No.93

(2) 美術情報及び友の会ニュースの発行

- ・美術情報 120号、121号、122号、123号
- ・友の会ニュース 170号～175号

(3) 所蔵作品展のボランティアによるギャラリーガイド 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、停止

(4) ボランティア・ギャラリーガイド研修

◆所蔵作品展研修(美術館共催)

令和3年3月13日(土) 20人

(5) 第67回日本伝統工芸展広島展こども鑑賞コース「出張授業」の支援

日 時：令和2年10月28日(水)

講 師：小林 松斎(木工作家)

支援ボランティア：4名

受講者：76人(広島市立袋町小学校 4・5年生)

(6) 特別展関連講演会(美術館共催)

◆令和2年9月26日(土)「ヨーロッパの宝石箱 リヒテンシュタイン侯爵家の至宝展」

演 題：「変貌する陶磁器－東西のコラボレーション」

講 師：鈴田 由紀夫(本展監修者、佐賀県立九州陶磁文化館館長)

参加者：80人

◆令和2年12月10日(木) 「浦上コレクション 北斎漫画－驚異の眼・驚異の筆－」

演 題：「世界を驚かせた北斎と『北斎漫画』」

講 師：浦上 満(本展監修者／浦上蒼穹堂代表)

参加者：80人

(7) 美術鑑賞の旅

◆お散歩美術鑑賞会

◇東広島市立美術館「日常とつながる美術の扉」

令和2年12月5日(土) 11:00～

参加者：19人

◆日帰り美術鑑賞旅行

◇奥田元宋・小由女美術館「熊谷守一展」

筆の里工房「陽明文庫展」

令和2年11月13日(金)

参加者：31人

Ⅳ 事業実施状況

令和2年4月1日～令和3年3月31日まで（新型コロナウイルス感染拡大防止を目的とする実施中止事業を含む。）

事業名	事業内容	実施期間
93,534名 特別展 62,924名 (8,361名) (中止) (延期(来夏)) (1,763名) (32,755名) (11,319名) (8,726名)	県民に多様な美術作品の鑑賞機会を提供し本県の芸術文化の向上に資するため、特別展を開催した。 「生誕135年記念 川端龍子展－衝撃の日本画」 【広島県主催事業】 「第8回新県美展(第72回広島県美術展)」 「藤子不二雄 [Ⓐ] 展－ [Ⓐ] の変コレクション」 「日常の光－写し出された広島」 「ヨーロッパの宝石箱 リヒテンシュタイン侯爵家の至宝展」 「浦上コレクション 北斎漫画－驚異の眼・驚異の筆－」 「第67回日本伝統工芸展」	5月12日～6月21日 6月13日～6月28日 7月10日～9月6日 7月23日～8月23日 9月18日～11月29日 12月10日～1月31日 2月17日～3月7日
所蔵作品展 30,610名	広島県ゆかりの美術作品、日本とアジアの工芸作品、1920-30年代の美術作品をテーマとする当館の所蔵作品を展示し、県民の鑑賞に供した。	常時 ※前年度3月7日～5月11日まで臨時休館
教育普及 一般 美術講演会 160名 (中止) (80名) (80名) (中止)	特別展、所蔵作品展等それぞれの事業に応じた学習機会を提供することにより、県民の美術作品に対する関心を高め、理解を深めた。 「会場芸術－川端龍子の魅力」 講師：木村 拓也(大田区立龍子記念館主任学芸員) 「変貌する陶磁器－東西のコラボレーション」 講師：鈴木 由紀夫(本展監修者、佐賀県立九州陶磁文化館館長) 「世界を驚かせた北斎と『北斎漫画』」 講師：浦上 満(本展監修者、浦上蒼穹堂代表) 「型の美を求めて～文様の起点と展開～」 講師：鈴木 滋人(重要無形文化財「木版摺更紗」保持者)	4月11日 (13:30～) 9月26日 (13:30～) 12月10日 (13:30～) 2月20日 (13:30～)
ギャラリートーク 14名 (中止) (中止) (中止) (中止)	特別展等について、展覧会場で作品に接しながら、分かりやすく作品解説をした。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ワイヤレスシステムを用い、人数限定で行った。 川端龍子展 神内 有理(当館主任学芸員)	4月10日 (11:00～) 4月24日 (11:00～) 5月8日 (11:00～) 5月22日 (11:00～)
14名 (8名) (6名)	リヒテンシュタイン展 岡地 智子(当館学芸員)、森 万由子(当館学芸員)	10月29日 (15:00～) 11月12日 (15:00～)
(中止) (中止)	北斎漫画展 隅川 明宏(当館学芸員)	12月11日 (11:00～) 12月18日 (17:00～)

事業名	事業内容	実施期間
(中止)		1月8日 (11:00~)
(中止)		1月15日 (17:00~)
(中止)		1月22日 (11:00~)
(中止)		1月29日 (17:00~)
美術講座	開催中の特別展等に関連したテーマのもと、学芸員を講師として開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	
(中止)	川端龍子展 「川端龍子-衝撃の日本画」 講師：神内 有理(当館主任学芸員)	5月9日 (13:30~)
スライドトーク	特別展等について、スライドを用い、分かりやすく作品解説をした。(コロナ禍のため、ギャラリートークの代替、事前予約制で実施)	
414名		
302名	リヒテンシュタイン展	
(31名)	山下 寿水(当館主任学芸員)	10月2日 (16:00~)
(52名)	森 万由子(当館学芸員)	10月11日 (15:00~)
(37名)	山下 寿水(当館主任学芸員)	10月23日 (16:00~)
(34名)	岡地 智子(当館学芸員)	11月1日 (15:00~)
(72名)	森 万由子(当館学芸員)	11月6日 (16:00~)
(76名)	岡地 智子(当館学芸員)	11月15日 (15:00~)
19名	北斎漫画展	
(19名)	隅川 明宏(当館学芸員)	12月11日 (11:00~)
(中止)	日本伝統工芸展 粟根 仁志(七宝)	2月19日 (15:00~)
(中止)	岡地 智子(当館学芸員)	2月22日 (15:00~)
(中止)	田代 明樹男(漆芸)	2月25日 (15:00~)
(中止)	小林 松斎(木工)	2月26日 (15:00~)
(中止)	木村 芳郎(陶芸)	2月27日 (11:00~)
(中止)	岡地 智子(当館学芸員)	3月1日 (15:00~)
(中止)	奥 富久枝(人形)	3月4日 (15:00~)
(中止)	平 恵子(染織)	3月5日 (15:00~)
(中止)	金城 一国斎(漆芸)	3月6日 (15:00~)
93名	所蔵作品展	
(15名)	「南薫造 光の表現を追求した画家」 藤崎 綾(当館主任学芸員)	10月10日 (15:00~)

事業名	事業内容	実施期間
(54名)	「縮景園と近世広島美術について」 隅川 明宏(当館学芸員)	10月24日 (15:00~)
(24名)	「柿右衛門様式の伊万里焼について」 岡地 智子(当館学芸員)	11月7日 (15:00~)
インスタギャラリートーク 1,079名	特別展等について、オンラインによるギャラリートークライブ配信を開始した。(コロナ禍のため、ギャラリートークの代替として実施)	
-	川端龍子展 神内 有理(当館主任学芸員)	6月11日 (17:00~)
-	木村 拓也(大田区立龍子記念館主任学芸員)、神内 有理(当館主任学芸員) ※当館と龍子記念館をつないだコラボ配信	6月16日 (17:00~)
-	木村 拓也(大田区立龍子記念館主任学芸員)、神内 有理(当館主任学芸員) ※当館と龍子記念館をつないだコラボ配信	6月18日 (17:00~)
-	高田 紫帆(水野美術館学芸員)、神内 有理(当館主任学芸員) ※当館と水野美術館をつないだコラボ配信	6月20日 (17:00~)
(30名)	日常の光展 山下 寿水(当館主任学芸員)	8月5日 (17:00~)
168名 -	リヒテンシュタイン展 千足 伸行(当館館長)、森 万由子(当館学芸員)	9月17日 (12:00~)
(37名)	森 万由子(当館学芸員)	10月5日 (17:00~)
(57名)	森 万由子(当館学芸員)	10月19日 (17:00~)
(40名)	岡地 智子(当館学芸員)	11月2日 (17:00~)
(34名)	森 万由子(当館学芸員)	11月16日 (17:00~)
103名 (45名)	北斎漫画展 隅川 明宏(当館学芸員)	12月21日 (17:00~)
(58名)		1月18日 (17:00~)
368名 (45名)	日本伝統工芸展 岡地 智子(当館学芸員)	2月18日 (17:00~)
(85名)	十四代今泉今右衛門(重要無形文化財「色絵磁器」の保持者) ※当館と作家工房をつないだコラボ配信	2月22日 (17:00~)
(96名)	木村 芳郎(陶芸家) ※当館と作家工房をつないだコラボ配信	2月23日 (17:00~)
(47名)	福田 浩子(当館学芸課長)、岡地 智子(当館学芸員)	2月25日 (17:00~)
(54名)	金城 一国齋(漆芸家) ※当館と作家工房をつないだコラボ配信	3月1日 (17:00~)
(41名)	福田 浩子(当館学芸課長)、岡地 智子(当館学芸員)	3月4日 (17:00~)
440名 -	所蔵作品展 今井 政之(陶芸家) ※当館と作家工房をつないだコラボ配信	7月6日 (12:30~)

事業名	事業内容	実施期間
-	造形で奏でる作家-芥川永- 角田 新(当館主任学芸員)	8月4日 (17:00~)
(130名)	中央アジアの刺繍～スザニ #乙嫁たちの手仕事	11月9日 (17:00~)
(130名)	中央アジアの刺繍～スザニ #乙嫁たちの手仕事	12月7日 (17:00~)
(48名)	ロシア・アヴァンギャルド 森 万由子(当館学芸員)	12月15日 (17:00~)
(65名)	こんなこともしています、美術館3 角田 新(当館主任学芸員)	1月13日 (17:00~)
(67名)	新収蔵品紹介 福田 浩子(当館学芸課長)、角田 新(当館主任学芸員)、神内 有理(当館主任学芸員)	2月10日 (17:00~)
対話型鑑賞会	展示室での実施に加え、オンラインでも開催した。	
36名		
(中止)	川端龍子展 当館学芸員	4月25日 (15:00~)
36名	所蔵作品展	
(5名)	森 万由子(当館学芸員)、岡地 智子(当館学芸員)	10月24日 (14:00~)
(8名)		11月22日 (13:00~)
(7名)		12月12日 (14:00~)
(7名)		1月16日 (14:00~)
(9名)		3月20日 (14:00~)
ワークショップ	所蔵作品展及び開催中の特別展に関連したワークショップを開催した。対面実施に加え、オンラインでも開催した。	
31名		
(中止)	川端龍子展 「龍子の技法体験ワークショップ-制作と鑑賞」 講師：森山 知己(日本画家・倉敷芸術科学大学教授)	4月18日 (13:30~)
5名	日本伝統工芸展	
(5名)	「学芸員の仕事に挑戦しよう！」 講師：福田 浩子(当館学芸課長)、岡地 智子(当館学芸員)	1月11日 (13:30~)
26名	所蔵作品展	
(4名)	スザニ刺繍ワークショップ 福田 浩子(当館学芸課長)、岡地 智子(当館学芸員)	9月19日 (13:00~)
(4名)		10月3日 (13:00~)
(9名)		11月21日 (13:30~)
(9名)		11月28日 (13:30~)
各種イベント	開催中の特別展にちなんだイベントを開催した。	
	北斎漫画展 TikTok Live「GoTo アート」 出演：浦上 満(本展監修者/浦上蒼穹堂代表)、隅川 明宏(当館学芸員)	1月15日 (19:00~)

事業名	事業内容	実施期間
コンサート	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	
(中止)	川端龍子展 森本ケンタ×我龍「衝撃のロビーコンサート」 演奏者：森本 ケンタ(ギター)×我龍(太鼓ユニット)	4月5日 (12:00~)
(中止)	日本伝統工芸展 森本ケンタミニコンサート 演奏者：森本 ケンタ	2月23日 (15:00~)
ハイビジョンブース	当館制作のハイビジョン番組(2番組)の視聴	機器調整対応(中止)
デジタルミュージアム	当館の案内や所蔵作品の検索、世界の美術館の情報などを検索	常時
美術館ホームページ運用	当館のホームページで、当館の情報を自由に検索 http://www.hpam.jp/	常時
教職員		
ティーチャーズ・デー 13名	広島県内の小学校、図画工作・美術科担当教職員を対象に実施した。	
(13名)	北斎漫画展 隅川 明宏(当館学芸員)	12月13日 (13:30~)
(中止)		1月10日 (13:30~)
児童・生徒		
親子ギャラリートーク	子どもたちが保護者とともに美術作品に親しめるよう、主に小学5、6年生(特別支援学校の相当学年を含む。)を対象として、友の会ギャラリーガイドが所蔵作品展示をわかりやすく解説するものとして、例年、毎月第4土曜日11時~実施していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	(中止)
ワークシートの作成	所蔵作品を鑑賞する児童・生徒に対し、学習補助教材として主要作品のワークシートを提供した。(現在335種)	
日本伝統工芸展出張授業 138名	希望校に日本工芸会正会員等が出向いて授業を行うことで、児童の制作の現場に接する機会を提供し、伝統工芸への理解を促進した。	
(76名)	広島市立袋町小学校4・5年生 講師：小林 小斎(木工)	10月28日
(17名)	三原市立糸崎小学校5年生 講師：田代 昭夫(漆芸)	11月6日
(18名)	広島市立己斐東小学校5年生 講師：粟根 仁志(七宝)	11月25日
(27名)	府中市立栗生小学校6年生 講師：今田 拓志(陶芸)	12月8日
手で見る展覧会	縮景園の「梅実収穫行事」に併せ、特別支援学校(視覚障害)の児童・生徒が作品に直接触れて美術を鑑賞する機会として、例年実施していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	(中止)
各種リーフレット作成	施設案内、年間スケジュール等の美術館の活動について、広く県民へ告知した。	
友の会ギャラリーガイド	県立美術館友の会のボランティアのギャラリーガイドが行う所蔵作品展の解説を、例年、火~金曜日の14:00~、および土・日・祝日の11:00~と14:00~に実施していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	(中止)
展示施設等貸出	展示施設等(県民ギャラリー・講堂)を貸出することにより、生涯学習の発表の場及び機会を提供し、県民の創作活動を支援した。	
観覧者等 39,546名	県民ギャラリー 利用団体数 58団体、利用日数 339延日 講堂(県民ギャラリー全室利用に併せ、展示室として利用)	令和2年3月30日 ~令和3年4月5日
利用者 2,749名	講堂 利用団体数 48団体、利用日数 49延日	令和2年4月1日 ~令和3年3月31日

1 広島県立美術館における新型コロナウイルスの影響と対策、情報発信について

(1) 臨時休館による美術館活動への影響

当館も、世界的に多岐にわたり大きな影響を及ぼした新型コロナウイルスの影響によって、平成31・令和元年度から令和2年度にかけて新型コロナウイルス感染拡大防止のために臨時休館した（翌年、令和3年度には2度の臨時休館）。

初めての臨時休館は、令和2年3月6日に広島県内で新型コロナウイルス感染者が発生し、当館は冬の所蔵作品展開催中の3月7日昼頃から5月11日まで臨時休館し、5月12日に再開館した。

臨時休館により、各関係者調整のうえ、次のように所蔵作品展と特別展の開催会期変更あるいは延長を行なった。また、開館状態であっても講演会やギャラリートーク、ワークショップなどのイベントを実施中止とした（詳細は各展覧会ページ参照）ことから、国内外の博物館・美術館同様にウェブを活用したイベント実施、情報発信に注力し、現在に至る。

その他、令和2年度の新型コロナ対応による変更等については、本年報の各項目もあわせて参照されたい。

展示室	当初予定	変更後	備考
2階展示室	冬の所蔵作品展 【小特集】 今井政之・バウハウス・入野忠芳 新収蔵作品(2020/1/2-4/19)	冬の所蔵作品展延期 (2020/1/2-(休館3/7-5/11)-7/19)	3/7-5/11 休館
	春の所蔵作品展(4/23-7/19)	中止	
3階展示室	川端龍子展(4/2-5/31)	川端龍子展 (5/12-6/21)	
	第8回新県美展（第72回広島県美術展）(6/13-6/28)	中止（代替として広島県Web公募美術展を開催）	
	藤子不二雄 [Ⓐ] 展(7/10-9/6)	中止（延期）	次年度夏に開催延期
		日常の光-写し出された広島、夏の所蔵作品展 前衛陶芸集団「走泥社」の時代(7/23-8/23)	藤子不二雄 [Ⓐ] 展に代えて開催

		臨時休館中	
	臨時休館中	臨時休館中	臨時休館中
	臨時休館中	臨時休館中	臨時休館中
	臨時休館中	臨時休館中	臨時休館中

(3) 臨時休館中の情報発信

臨時休館中は、休館している旨や、休館と開催会期が被った特別展の前売券払戻方法の告知と並行して、閉室していた展示室からの展覧会や作品の情報発信として「エア美術館」をSNSで公開した。

エア美術館の狙いと経緯

エア美術館は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために在宅している人々に向けて、博物館、美術館、動物園、水族館といったミュージアムが展覧会や作品を様々な見せ方、魅せ方で紹介する取り組みで、各種のSNSを通じて世界的なムーブメントとなった。

臨時休館中でも鑑賞の機会を少しでも提供したい、さまざまに辛い状況に直面している人々に短いけれど心安らく時間を過ごしていただきたい、そして、当館のことを少しでも覚えていただき開館の暁には再び来館していただきたいとの思いで、エア美術館を構想した。

休館状態となった翌週の3月12日から「臨時休館中の広島県立美術館プレゼンツ エア美術館」を1日1本ずつツイッター、Facebook、Instagramで配信し始めた。当初、3月31日までの予定のところ、臨時休館期間が「当面の間」に変更となったことから、4月からはシーズン2、5月にはシーズン3と称して、配信計画を練って長期化に備えた。ゴールデンウィーク明けの5月8日に5月12日再開館が決定し、61本目である5月11日配信分が最終回となった。

結果的に3シーズンとなったエア美術館は

- シーズン1：開催中の所蔵作品展出品作品を中心に紹介
- シーズン2：所蔵作品展出品作品と4月2日から開幕予定であった特別展の川端龍子展出品作品を紹介
- シーズン3：長期化に備えて、いくつかのシリーズを想定。初回として5月10日の母の日を前に「花」のシリーズ（9回）

動画の作成と方針

エア美術館に取り上げる作品は、原則的に著作権の切れたものとし、作者が現存または没後50年以内で著作権が生きている場合はご本人またはご遺族に連絡して、趣旨をご説明し了解をいただいた。

エア美術館は美術館業務だけでなく、編集などは私物パソコンで作業を行った。100%の美術館本務ではないこともあり、始めから手間と経費をかけないという方針とし、もっぱら手持ちのスマートフォン（iPhoneXR）を使って撮影し、必要な場合のみ過去の写真やプロの漫画家に描いていただいたイラスト、ドローン撮影写真なども流用した。



学芸員が登場する回の収録はできるだけ短時間とし、1回10～20分程度で済ませた。4月15日からは、美術館の県職員は2班に別れて美術館勤務と在宅テレワークを交互に行うこととなったことも影響し収録に工夫が必要であった。大好評となったなりきり美術館編の撮影は、テレワーク体制が始まることが判明してすぐに総務課学芸課の有志が行なって実現したものである。

展示室のキャプションや解説は写真をそのまま使って臨場感を演出し、作品情報テキスト作成にはLINEのOCR機能を活用している。編集は私物のMacBookProのiMovieでmp4を作成、担当学芸員へLINEで確認ののち、広報担当へgmailでデータを送り、SNSへ投稿するという流れとなった。既存の素材やパソコン、ネットの力を最大限活用してエア美術館は最後まで予算ゼロで完結させた。

反響とマスコミの注目

SNSではリーチ数やいいね数、再生回数などのデータが得られ、テーマや作り方によって反響の程度がわかり、興味深いものとなった。数多くの印象深いコメントやいいね！をいただいた。世界的流行に呼応して「なりきり美術館」を学芸課有志が総力を結集して作りあげたコスプレ写真には、ハッシュタグ #tussenkunstenquarantaine を付して配信し、45回目配信分は当時の当館 Facebook リーチ数最高記録を叩き出した。

1日1本配信を継続したこともあり、一般の方々以外にもマスコミの注目を集め、臨時休館中の美術館の取り組み例として報道された。『北海道新聞』、『中国新聞』、『地域創造レター』、『Wink広島』、広島県観光連盟FB、TBS Nスタ、RCC イマナマ、テレビ西日本「もち浜S特報ライブ」など。

エア美術館配信リスト

ツイッター、Facebook、Instagramで配信した。現在も閲覧可。

臨時休館中の広島県立美術館プレゼンツ エア美術館全 61 回

通し 番号	配信 月日	曜日	シーズン	分類	作品・テーマ
1	3/12	木	1-1	所蔵作品	開催宣言 色絵馬シロ
2	3/13	金	1-2	所蔵作品	今井政之「蟹大皿」
3	3/14	土	1-3	所蔵作品	バウハウス
4	3/15	日	1-4	所蔵作品	南薫造「アトリエからの眺め」
5	3/16	月	1-5	所蔵作品	「道具箱(山野家所用)」
6	3/17	火	1-6	特別展	白い展示室
7	3/18	水	1-7	所蔵作品	丸木スマ「小鳥の滝」
8	3/19	木	1-8	番外篇	シロとアカ「伊万里柿右衛門様式色絵馬」
9	3/20	金	1-9	所蔵作品	今井政之「躍鳥扁壺」「象嵌彩窯変磯蟹大皿」
10	3/21	土	1-10	所蔵作品	小林和「黒部宇奈月」「室戸岬」「都井岬の海」
11	3/22	日	1-11	所蔵作品	木村芳郎「碧釉水稜器」「碧釉稜壺」
12	3/23	月	1-12	所蔵作品	ライオネル・ファイニンガー「海辺の夕暮」
13	3/24	火	1-13	所蔵作品	小林千古「静物」
14	3/25	水	1-14	所蔵作品	児玉希望「黎明」
15	3/26	木	1-15	所蔵作品	ワシリー・カンディンスキー「小さな世界III, VI, XII」
16	3/27	金	1-16	番外篇	桜スペシャル
17	3/28	土	1-17	番外篇	特報 シーズン2
18	3/29	日	1-18	所蔵作品	入野忠芳前編「原爆ドームの内壁」「浮遊」
19	3/30	月	1-19	所蔵作品	入野忠芳後編「裂罅75-6」「風成94-5」
20	3/31	火	1-20	番外篇	シーズン1 総集編
21	4/1	水	2-1	番外篇	桜満開
22	4/2	木	2-2	特別展	1 全体紹介
23	4/3	金	2-3	特別展	2 図録
24	4/4	土	2-4	所蔵作品	巖光「コミサ(洋傘による少女)」
25	4/5	日	2-5	所蔵作品	朝井清「女性像」
26	4/6	月	2-6	所蔵作品	朝井清「広島夕焼(サインあり)」「広島夕焼(サインなし)」
27	4/7	火	2-7	所蔵作品	朝井清「祇園祭」
28	4/8	水	2-8	特別展	3 エアGT準備篇
29	4/9	木	2-9	所蔵作品	重要文化財「伊万里色絵花弁文輪花鉢(柿右衛門様式)」
30	4/10	金	2-10	特別展	4 イントロダクション 画家龍子
31	4/11	土	2-11	特別展	5 「友子の空想旅行双六」
32	4/12	日	2-12	特別展	6 「草の実」
33	4/13	月	2-13	特別展	7 「龍巻」
34	4/14	火	2-14	所蔵作品	パウル・クレー「何で走っているのだろう」
35	4/15	水	2-15	特別展	8 「香炉峰」
36	4/16	木	2-16	所蔵作品	粟根昭二郎「銀箔地七宝蓋物『安芸』」
37	4/17	金	2-17	特別展	9 「爆弾散華」
38	4/18	土	2-18	特別展	10 「傲赤不動」
39	4/19	日	2-19	なりきり	なりきり美術館 小林千古「ミルク・メイド」メイキング
-	4/19	日	2-19	なりきり	なりきり美術館 小林千古「ミルク・メイド」
40	4/20	月	2-20	特別展	11 「百子図」
41	4/21	火	2-21	特別展	12 「夢」
42	4/22	水	2-22	特別展	美術館の裏側～燻蒸
43	4/23	木	2-23	特別展	13 第一回春の青龍展ポスター&刺繍
44	4/24	金	2-24	特別展	14 鉦鼓洞主(横山大観)「大観」、横山大観「竹(竹外一枝)」、川端龍子「松(唐崎夜雨)」、川合玉堂「梅(野梅)」
45	4/25	土	2-25	なりきり	なりきり美術館 南薫造「坐せる女」
46	4/26	日	2-26	なりきり	なりきり美術館 南薫造「坐せる女」メイキング
47	4/27	月	2-27	番外篇	シーズン2 総集編(上) 1-9
48	4/28	火	2-28	番外篇	シーズン2 総集編(中) 10-18
49	4/29	水	2-29	番外篇	シーズン2 総集編(下) 19-26
50	4/30	木	2-30	番外篇	特報シーズン3
51	5/1	金	3-1	特別展	15 「龍子垣」
52	5/2	土	3-2	所蔵作品・ 母の日の花 特集	柿右衛門の花々
53	5/3	日	3-3		アリスティード・マイヨール「ウェルギリウスの農耕歌」
54	5/4	月	3-4		インド更紗「生命の樹文更紗」
55	5/5	火	3-5		大村廣陽「藤の花かけ」
56	5/6	水	3-6		インド金更紗 「紺地クリシュナ・ゴビ文金更紗」など
57	5/7	木	3-7		南薫造「花」
58	5/8	金	3-8		植松抱民「桜に燕研出蒔絵硯箱」「萩に雁研出蒔絵文台」
59	5/9	土	3-9		川端龍子「炎庭想雪図」「立秋」「傲赤不動」「草の実」「涼露品」「花鳥諷詠」「龍子垣」「百子図」
60	5/10	日	3-10		中央アジア・トルクメン人「女性用被衣(チルピ)」、森薫「トルクメン人の民族衣装」
61	5/11	月	3-11		番外篇

福田浩子編(当館学芸課長)

V 業務一覧

広島県立美術館学芸員が令和2年度に行なった業務を報告する。内容は、1 美術館内での業務等（館主体事業）、2 美術館外での業務等（他からの招聘等）、3 調査・研究活動、4 その他、に分類・配列し、記載している。学芸課職員の構成及び担当分野は次のとおり。

福田 浩子（学芸課長、工芸）	角田 新（主任学芸員、日本洋画）
藤崎 綾（主任学芸員、日本洋画）	神内 有理（主任学芸員、日本画）
山下 寿水（主任学芸員、西洋美術）	隅川 明宏（学芸員、日本画）
岡地 智子（学芸員、工芸）	森 万由子（学芸員、西洋美術）

■ 福田 浩子

1 美術館内での業務等

【展覧会】

- ・特別展「生誕135年記念 川端龍子展—衝撃の日本画」（事務局員）（図録編集校正）
- ・特別展「ヨーロッパの宝石箱 リヒテンシュタイン侯爵家の至宝展」（事務局長）
- ・特別展「浦上コレクション 北斎漫画—驚異の眼・驚異の筆—」（事務局長）
- ・特別展「第67回日本伝統工芸展」（事務局員）
- ・所蔵作品展「2期」（4室・西展示室、工芸副担当）、「3期」（4室、工芸主担当）、「4期」（4室、工芸副担当）

【教育支援（教育普及）】

- ・博物館実習（8/24講座「美術館と学芸活動」、8/26作品取扱）
- ・「臨時休館中の広島県立美術館プレゼンツ エア美術館」SNS発信用動画42本、撮影・編集（3/12～）4/1～5/11分）
- ・所蔵作品展「3期」スザニ刺繍ワークショップ（9/19、10/3、11/21、28）
- ・「」 インスタギャラリートーク（11/9、12/7）
- ・所蔵作品展「4期」インスタギャラリートーク（2/10）
- ・特別展「第67回日本伝統工芸展」インスタギャラリートーク（2/23、25、3/4）

【広報活動】

- ・特別展「第67回日本伝統工芸展」新聞寄稿（『朝日新聞』県内入選作品解説記事2/24付、2/27付、3/2付）

【研修・自己啓発】

- ・シニア・マネジメント研修（2/9）

2 美術館外での業務等

【館外での発表など】

- ・「広島県立美術館の新型コロナ対策について」広島県美術館ネットワーク研修会（9/1）
- ・令和2年度広島県障害者文化芸術活動支援事業 写真・動画づくりセミナー&ワークショップ レクチャー編 コンテンツ事例紹介「広島県立美術館の取り組み～エア美術館（全61回）について」（3/14）

3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・作品調査（染織6/25、7/12、17、9/7、10/1、12、28、12/12、24、1/7）、（陶磁4/20、7/13、29、10/23、12/4、1/13）

【館内出版物への執筆】

- ・『広島県立美術館所蔵作品ミニガイド^⑭ 柿右衛門様式 海を渡った日本の磁器』、令和2年10月

- ・「中央アジアの刺繍布スザニについて（1）スザニに関する研究の中間報告および刺繍ワークショップ」『広島県立美術館研究紀要』第24号、令和3年3月

【館外出版物への執筆】

- ・「アートの扉 広島県立美術館編1 女性用刺繍靴」『毎日新聞夕刊（東京・中部・西日本版）』令和2年4月13日、『毎日新聞（広島版）』令和2年8月29日
- ・「アートの扉 広島県立美術館編2 刺繍布（スザニ）」『毎日新聞夕刊（東京・中部・西日本版）』令和2年4月27日、『毎日新聞（広島版）』令和2年9月5日
- ・「アートの扉 広島県立美術館編3 女性用コート（チャパン）」『毎日新聞夕刊（東京・中部・西日本版）』令和2年5月18日、『毎日新聞（広島版）』令和2年9月12日
- ・「アートの扉 広島県立美術館編4 護符入れ（トゥマル）」『毎日新聞夕刊（東京・中部・西日本版）』令和2年6月1日、『毎日新聞（広島版）』令和2年9月19日
- ・「アートの扉 広島県立美術館編5 女性用被衣（チルピ）」『毎日新聞夕刊（東京・中部・西日本版）』令和2年6月15日、『毎日新聞（広島版）』令和2年9月26日
- ・「アートの扉 広島県立美術館編6 刺繍袋」『毎日新聞夕刊（東京・中部・西日本版）』令和2年6月29日、『毎日新聞（広島版）』令和2年10月3日
- ・御即位を祝う献上品解説
- ・「広島県立美術館 エア美術館（全61回）について」『第68回広島県高等学校教育研究会 美術、工芸部会研究大会、総会（今年度中止）』令和2年7月

4 その他

【審査委員等】

- ・（令和元年度から延期）第10回ひろしま建築文化賞審査委員
- ・令和2年度県民文化奨励賞推薦（ケンシン地域振興財団）
- ・令和2年度環境啓発ポスター・標語コンクール審査委員（広島県環境保健協会）

【所属学会】

- ・日本中央アジア学会、漆工史学会、全国美術館会議情報・資料研究部会

■ 角田 新

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・特別展「藤子不二雄A展」（主担当）→開催延期
- ・特別展「第67回日本伝統工芸展」（副担当）
- ・特別展「没後70年 南薫造」展（次年度・副担当）
- ・所蔵作品展「2期」（彫刻展示スペース、彫刻担当／2室、日本洋画担当）、「4期」（彫刻展示スペース、彫刻担当／2室・3室、日本洋画担当）

【教育支援（教育普及）】

- ・特別展「第67回日本伝統工芸展」こども鑑賞コース出張授業補助（11／25広島市立己斐東小学校、12／8府中市立栗生小学校）
- ・所蔵作品展「2期」インスタギャラリートーク（8／14）
- ・所蔵作品展「4期」インスタギャラリートーク（1／13、2／10）
- ・博物館実習（8／25作品取扱、講座「美術館の展示環境・展示手法」）

2 美術館外での業務等

- ・特別展「南薫造」地域連携事業関連業務（2／22写生ワークショップ（南薫造記念館））

3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・作品調査：南薫造（7／8、15、10／15、23、11／27）、迫幸一（6／24）、奥田秀樹（9／24）、山路商（3／24）

【館外出版物への執筆】

- ・「クローズアップ・奥田秀樹」『美術ひろしま31』広島市文化財団、令和3年1月
- ・作品解説（分担執筆）『没後70年 南薫造』展図録、令和3年2月

4 その他

- ・美術ひろしま編集委員

■ 藤崎 綾

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・特別展「生誕135年記念 川端龍子展—衝撃の日本画」（副担当）
- ・特別展「没後70年 南薫造」（次年度・主担当）
- ・所蔵作品展「3期」（2室、日本洋画担当）

【教育支援（教育普及）】

- ・博物館実習（8／25作品取扱）
- ・所蔵作品展「3期」スライドトーク（10／10）

2 美術館外での業務等

- ・出張講座「絵の探検 ミナミさんの絵のヒミツ」（12／8広島市立東浄小学校2年生）
- ・「鬚光とその時代—《眼のある風景》と自画像」メディア・レクチャー（2／28広島市映像文化ライブラリー）

3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・地域美術研究・作品調査：南薫造（7／8、15、10／15、23、11／27）、鬚光・北川実（7／25）、山路商（3／24）

【館内出版物への執筆】

- ・『広島県立美術館所蔵作品ミニガイド^⑬ 南薫造 光の表現を追求した画家』、令和2年10月

【館外出版物への執筆】

- ・「鬚光《静物》（個人蔵）について—「宋元画風」作品の素地と展開」『無辜の絵画 鬚光、竣介と戦時期の画家』広島市現代美術館編・国書刊行会、令和2年6月
- ・「南薫造—自然を見つめた眼、瀬戸内へのまなざし」（エッセイ）、章解説・作品解説・コラム解説（分担執筆）、「年譜」、「参考文献」『没後70年 南薫造』展図録、令和3年2月

4 その他

- ・公益社団法人青少年育成広島県民会議・図画審査（10／2）
- ・全国美術館会議・幹事会（12／7）

■ 神内 有理

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・特別展「生誕135年記念 川端龍子展—衝撃の日本画」（主担当）
- ・特別展「浦上コレクション 北斎漫画—驚異の眼・驚異の筆」（副担当）
- ・所蔵作品展（全体統括）
- ・所蔵作品展「2期」（3室、日本画主担当）、「4期」（3室、日本画主担当）

【教育支援（教育普及）】

- ・特別展「川端龍子展」インスタギャラリートーク（6/11、16、18、20）
- ・博物館実習主担当（8/24～28）
- ・所蔵作品展「4期」インスタギャラリートーク（2/10）

【広報活動】

- ・特別展「川端龍子展」エア美術館（オンラインによる配信：4/2、4、10、12、13、14、15、17、18、19、20、23、24、26）
- ・特別展「川端龍子展」ラジオ対応（5/21FMふくやま、5/26FM尾道）
- ・新聞・雑誌寄稿（『広島経済レポート』4月号、『Grande広島』春号、『毎日新聞』4/30付、『広島県立美術館友の会会報 色絵馬』第91号）

2 美術館外での業務等

- ・南薫造展 地域連携事業関連業務（11/27、12/4、1/15、20、2/22、3/19）

【館外での発表など】

- ・「画家・和高節二の絵と人生」安芸高田市歴史民俗博物館第3回公開講座（11/8）

3 調査研究活動

【館内出版物への執筆】

- ・『広島県立美術館所蔵作品ミニガイド^⑫ 平山郁夫 救済への道』令和2年7月、1-12頁）

【館外出版物への執筆】

- ・章解説・コーナー解説・作品解説（分担執筆）『生誕135年記念 川端龍子展』図録、令和2年4月
- ・川合玉堂《溪村春麓図》作品紹介『ふれあい』80号、中国化薬株式会社
- ・「川端龍子展紙上展覧会」『中国新聞』、令和2年5月2日、3日、4日、5日、6日（5回連載）
- ・「緑地帯 文化の地層 観古館」『中国新聞』、令和2年8月20～22日、25～29日（8回連載）

【その他】

- ・科学研究費助成事業 基盤研究(C)「浮世絵から照射する日本近代美術－日本近代美術再考」（研究分担者）

4 その他

【所属学会、外部委員、審査員など】

- ・京都造形芸術大学通信教育部非常勤講師（博物館生涯学習概論担当）
- ・紺綬褒章価格評価（高階肖氏の寄附に係る評価）

■ 山下 寿水

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・特別展「日常の光－写し出された広島」（主担当）
- ・特別展「ヨーロッパの宝石箱 リヒテンシュタイン侯爵家の至宝展」（副担当）
- ・特別展「国立美術館巡回展（仮）」（次々年度、主担当）
- ・所蔵作品展「2期」（1室、西洋美術担当）

【教育支援（教育普及）】

- ・特別展「日常の光」インスタギャラリートーク（8/5）
- ・特別展「リヒテンシュタイン展」スライドトーク（10/2、23）
- ・所蔵作品展友の会ギャラリーガイドレクチャー（3/13）

【広報活動】

- ・女学院大学「博物館経営論」受講者への所蔵作品（ダリ《ヴェーナスの夢》）紹介（12/12、地階講堂）

- ・特別展「第67回日本伝統工芸展」テレビ対応（3/2 NHK『ひるまえ直送便』）
- ・ 〃 新聞・雑誌寄稿（『朝日新聞』県内入選作品解説記事2/17付、2/20付、2/21付、2/22付、2/25付、3/1付、『月刊経済春秋』3月号、『広島県立美術館友の会会報 色絵馬』第93号）

2 美術館外での業務等

- ・出張講座「広島がはぐくんだ伝統工芸「高盛絵」」（9/24広島市立江波小学校）

3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・作品調査（陶磁7/13、29、8/16、10/23、12/4、1/13）（染織6/26、7/17、8/12、9/7、10/1、12）

【館内出版物への執筆】

- ・『広島県立美術館所蔵作品ミニガイド^⑭ 柿右衛門様式 海を渡った日本の磁器』、令和2年10月
- ・『第67回日本伝統工芸展子どもガイド 工芸技法キャラクター図鑑3』、令和3年2月

【館外出版物への執筆】

- ・「所蔵作品紹介 佐藤 敏」『広島県立美術館友の会会報』第91号、令和2年4月
- ・「第66回日本伝統工芸展広島展報告」『日本工芸会中国支部会報』第26号

4 その他

- ・全国美術館会議保存研究部会、文化財保存修復学会、東洋陶磁学会（以上、会員）

■ 森 万由子

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・特別展「第8回新県美展（第72回広島県美術展）」（中止）（主担当）
- ・特別展「ヨーロッパの宝石箱 リヒテンシュタイン侯爵家の至宝展」（主担当）
- ・所蔵作品展「3期」（1室、西洋美術担当）、「4期」（1室、西洋美術担当）

【教育支援（教育普及）】

- ・特別展「リヒテンシュタイン展」ギャラリートーク（10/29、11/12）
- ・ 〃 スライドトーク（10/11、11/6）
- ・ 〃 スライドトーク（団体向け）（10/16、11/18、20）
- ・ 〃 インスタギャラリートーク（9/17、10/5、11/16）
- ・所蔵作品展「3期」対話型鑑賞会（対面11/22）（オンライン10/24、12/12）
- ・ 〃 インスタギャラリートーク（12/15）
- ・所蔵作品展「4期」対話型鑑賞会（オンライン1/16、3/20）
- ・博物館実習（対話型鑑賞8/24）

【研修・自己啓発】

- ・令和元年度広島県美術館ネットワーク研修会（11/25広島県立美術館）
- ・全国美術館会議教育普及研究部会（12/15第54回会合、2/25、3/3分科会、3/18第55回会合、全てオンライン）
- ・独立行政法人国立美術館 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修15周年記念シンポジウム「美術館と学校 鑑賞教育の今と未来」（2/14オンライン）

【広報活動】

- ・特別展「リヒテンシュタイン展」テレビ・ラジオ対応（9/18中国放送『イマナマ!』、9/12、9/26、10/10『RCC PLAY! ラジオ』、9/18RCCラジオカー中継、9/22FMおのみち、9/23FMふくやま）

- ・特別展「リヒテンシュタイン展」新聞・雑誌寄稿（『中国新聞』10／9付、10／23付、11／6付、『月刊経済春秋』9月号、『広島県立美術館友の会会報 色絵馬』第92号）

2 美術館外での業務等

- ・広島大学大学院人間社会科学研究科 学習開発学発展研究「美術館と学校教育との連携」（2／3オンライン）
- ・令和2年度広島県障害者文化芸術活動支援事業 写真・動画づくりセミナー&ワークショップ レクチャー編 お題の作品の紹介（3／14広島県立美術館）

3 調査研究活動

【館内出版物への執筆・発表】

- ・「サルバドール・ダリと1939年ニューヨーク万国博覧会—パビリオン「ヴィーナスの夢」の位置づけをめぐって」『広島県立美術館研究紀要』第24号、令和3年3月

【館外出版物への執筆・発表】

- ・「広島県立美術館の普及活動について」『第68回広島県高等学校教育研究会 美術、工芸部会研究大会、総会（今年度中止）』令和2年7月
- ・「豊かな教育の広がり」『月刊 初等教育資料2021年4月号』令和3年3月

4 その他

- ・全国美術館会議教育普及研究部会、日仏美術学会、美学会、早稲田大学美術史学会（以上、会員）

Ⅵ 入館者数一覧

展覧会名	所蔵作品展	特 別 展					
		生誕135年記念 川端龍子展 －衝撃の日本画	第8回新県美展 (第72回広島県美術展) 中止	藤子不二雄 [Ⓐ] 展 － [Ⓐ] の変コレクション 延期(来夏)	日常の光 －写し出された広島	ヨーロッパの宝石箱 リヒテンシュタイン 伯爵家の至宝	
開催期日	H31. 5.12 ～ R2. 3.31	R2. 5.12 ～ R2. 6.21	R2. 6.13 ～ R2. 6.28	R2. 7.10 ～ R2. 9. 6	R2. 7.23 ～ R2. 8.23	R2. 9.18 ～ R2.11.29	
開催日数	283 日	36 日	— 日	— 日	29 日	73 日	
個人	一般	1,557	2,568	—	—	—	10,151
	高・大学生	194	58	—	—	—	453
	小・中学生	—	32	—	—	—	309
	小計	1,751	2,658	—	—	—	10,913
団体	一般	1,799	4,092	—	—	—	15,647
	高・大学生	283	29	—	—	—	462
	小・中学生	—	32	—	—	—	671
	小計	2,082	4,153	—	—	—	16,780
有料入館者数	3,833	6,811	—	—	—	27,693	
招待者等	26,777	1,550	—	—	1,763	5,062	
合計 (観覧者総数)	30,610	8,361	—	—	1,763	32,755	
一日あたり 観覧者数	104	232	—	—	61	449	

(注) 「1日あたり観覧者数は、小数点以下第1位を四捨五入。

所蔵作品展の団体人数には、所蔵作品展と縮景園の共通入館者を含む。

所蔵作品展の「高・大学生」欄は、平成14年度の条例改正の無料化により、高校生を含まない。

所蔵作品展の招待者等には、減免及び無料入館者を含む。(平成14年度の条例改正により無料化した小・中・高校生で内数。)

「第8回新県美展(第72回広島県美術展)」、「日常の光－写し出された広島」以外は実行委員会主催。

団体人数には、前売り及び割引入館者を含む。

「第67回日本伝統工芸展」は中学生以下を無料とした。

展 覧 会 名	特 別 展			合 計	総 計
	浦上コレクション 北斎漫画 -驚異の眼・驚異の筆-	第67回 日本伝統工芸展			
開 催 期 日	R2.12.10 ～ R3. 1.31	R3. 2.17 ～ R3. 3. 7			
開 催 日 数	45 日	19 日	202 日	495 日	
個 人	一 般	2,783	3,589	19,091	21,735
	高・大学生	141	130	782	1,094
	小・中学生	126	—	467	467
	小 計	3,050	3,719	20,340	23,296
団 体	一 般	5,482	3,132	28,353	30,152
	高・大学生	85	35	611	894
	小・中学生	228	—	931	931
	小 計	5,795	3,167	29,895	31,977
有料入館者数	8,845	6,886	50,235	55,273	
招 待 者 等	2,474	1,840	12,689	38,261	
合 計 (観 覧 者 総 数)	11,319	8,726	62,924	93,534	
一 日 あ た り 観 覧 者 数	252	459	312	189	

Ⅶ 美術品等収集状況

1 分野別収集美術品数一覧

(令和3年3月31日現在)

種 目		一般購入	基金購入 (H2年度以降)	購入総数	寄 附	所管換	合 計	受 託
絵 画	日 本 画	46	60	106	241	3	350	13
	油 彩 画	230	62	292	543	4	839	211
	水 彩 画	89	4	93	217	0	310	1
	素 描	44	20	64	297	0	361	20
	パステル画 アクリル画	1	0	1	6	0	7	0
	版 画	53	180	233	349	0	582	0
	拓 本	26	0	26	51	0	77	0
	平面造形ほか	3	56	59	2	0	61	0
彫 塑	8	23	31	71	0	102	6	
工 芸	112	1,184	1,296	312	4	1,612	6	
書	5	0	5	93	1	99	0	
美 術 資 料	2	2	4	674	0	678	2	
合 計	619	1,591	2,210	2,856	12	5,078	259	

Ⅷ 美術品等の貸出し

種別	作者名など	作品名	貸出先	目的（展覧会名）	会期・場所
油彩画	サルバドール・ダリ	ヴィーナスの夢	Arp museum Bahnhof Rolandseck	Salvador Dali and Hans Arp. The Birth of Memory	(2. 2. 16) ~ 8. 16 (Arp Museum Bahnhof Rolandseck)
油彩画	田谷 行平	球	泉美術館	40年の足跡 麤会 - 木下和・田谷行平・三原捷宏	2. 5. 26~10. 18(泉美術館)
日本画	丸木 位里	ラクダ	奥田元宋・小由女美術館 一宮市三岸節子記念美術館 富山県水墨美術館	墨は流すもの - 丸木位里の宇宙 -	2. 7. 2~8. 16(奥田元宋・小由女美術館) 2. 9. 1~10. 11 (一宮市三岸節子記念美術館) 2. 11. 13~12. 27 (富山県水墨美術館)
	丸木 位里	雨乞			
	丸木 位里	柳暗			
	丸木 位里	不動			
	丸木 位里	牛			
	丸木 位里	竹林			
陶 磁	十二代三輪休雪(龍作)	LOVE	山口県立萩美術館・浦上記念館	三輪龍氣生展 - 行け、熱き陶の想いよ。	2. 9. 12~12. 20 (山口県立萩美術館・浦上記念館)
	十二代三輪休雪(龍作)	続・卑弥呼の書 No. 5			
日本画	竹内 栖鳳	城址	三之瀬御本陣芸術文化館	京都近代絵画の精華	2. 9. 26~11. 9 (三之瀬御本陣芸術文化館)
日本画	甲斐庄楠音	横櫛	京都市美術館 (京都市京セラ美術館)	京都市京セラ美術館開館記念展「京都の美術 250年の夢 第1部~第3部総集編-江戸から現代へ」	2. 10. 10~12. 6 (京都市美術館 (京都市京セラ美術館))
染 織	森口 邦彦	訪問着「溪流」	京都国立近代美術館	人間国宝 森口 邦彦 友禅/デザイン 交差する自由へのまなざし	2. 10. 13~12. 6 (京都国立近代美術館)
	森口 邦彦	友禅訪問着「薔薇」			
	森口 邦彦	友禅着物楔形漸層文「新雪」			
	森口 邦彦	友禅訪問着「光波」			
平面造形	森口 邦彦	線の截り方2			
	森口 邦彦	線の截り方4			
	森口 邦彦	線の截り方5			
	森口 邦彦	線の截り方7			
	森口 邦彦	線の截り方10			
	森口 邦彦	線の截り方13			
	森口 邦彦	線の截り方16			
	森口 邦彦	線の截り方17			
	森口 邦彦	Shadow magic I			
	森口 邦彦	Shadow magic II			
	森口 邦彦	Shadow magic III			
	森口 邦彦	Etude sur le vert 12			
	森口 邦彦	Etude sur le vert 16			
	森口 邦彦	Etude sur le vert 25			
	油彩画	アレクサンダー・カーノルト			
平面造形	クルト・シュヴィッタース	メルツ394、ピナコテーク			
油彩画	藤田 嗣治	婦人像 (リオ)	福岡市美術館	藤田嗣治と彼が愛した布たち	2. 10. 17. ~12. 13 (福岡市美術館)
油彩画	鬘 光	屋根の見える風景	公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館	Connections -海を越える憧れ、日本とフランスの150年	2. 11. 14~3. 4. 4 (ポーラ美術館)

Ⅹ 関係法規

広島県立美術館条例

(昭和43年3月26日)
広島県条例第20号)

全部改正 平成8年条例第16号

最終改正 平成28年10月12日

(設置)

第1条 美術に関する県民の知識及び教養の向上に資するため、博物館法(昭和26年法律第285号)第18条の規定に基づき、広島県立美術館(以下「美術館」という。)を設置する。

(位置)

第2条 美術館の位置は、広島市中区上幟町とする。

(業務)

第3条 美術館は、次の業務を行う。

- (1) 美術品等を収集し、保管し、又は展示して、県民の利用に供すること。
- (2) 美術品等の展示施設(以下「展示施設」という。)その他の美術館の施設を美術品等の展示等のための利用に供すること。
- (3) 美術品等に関する専門的及び技術的な調査研究を行うこと。
- (4) その他県民の美術に関する知識、教養、調査研究等に資するために必要な事業を行うこと。

(職員)

第4条 美術館に、館長その他必要な職員を置く。

- 2 館長は、前条第1号及び第3号に掲げる業務並びに同条第2号及び第4号に掲げる業務のうち次条第2項第1号に掲げる業務を除いたものを掌理し、所属職員を指揮監督する。

(指定管理者による管理)

第5条 美術館の管理は、広島県公の施設における指定管理者の指定手続等に関する条例(平成16年広島県条例第28号)の定めるところにより、教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

2 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 第三条第二号及び第四号に掲げる業務のうち教育委員会規則で定めるものを行うこと。
- (2) 美術館の展示施設及び講堂(以下「展示施設等」という。)並びに駐車場の利用の許可に関すること。
- (3) 展示施設等及び駐車場その他の美術館の施設並びに附属設備の維持及び修繕に関すること。
- (4) 展示施設等及び駐車場の利用に係る料金(以下「利用料金」という。)の収受に関すること。
- (5) 美術館の入館料の徴収に関すること。
- (6) その他教育委員会が別に定める業務を行うこと。

(開館時間等)

第6条 美術館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、金曜日は、午後7時まで開館時間を延長する。

2 講堂及び駐車場の利用時間は、次のとおりとする。

- (1) 講堂 午前9時から午後9時まで
- (2) 駐車場 午前9時から午後9時15分まで

3 前2項の規定にかかわらず、教育委員会又は指定管理者は、特に必要があると認めるときは、第1項の開館時間又は前項の利用時間を変更することができる。この場合においては、指定管理者は、あらかじめ教育委員会の承認を得なければならない。

(休館日等)

第7条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号。以下「祝日法」という。)に規定する休日当たる場合を除く。)
- (2) 12月25日から翌年の1月1日までの日

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会又は指定管理者は、特に必要があると認めるときは、前項の休館日以外の日において臨時に休館し、又は同項の休館日において臨時に開館することができる。この場合においては、指定管理者は、あらかじめ教育委員会の承認を得なければならない。

(利用の許可)

第8条 展示施設等及び駐車場を利用しようとする者は、教育委員会規則及び指定管理者の定めるところにより、指定管理者の許可を受けなければならない。

2 指定管理者は、前項の許可(以下「利用許可」という。)をする場合においては、美術館の管理上必要な限度において条件を付することができる。

(利用許可の制限)

第9条 指定管理者は、展示施設等及び駐車場の利用の目的又は方法が、次の各号のいずれかに該当するときは、利用許可をしてはならない。

- (1) 公益を害し、又は風俗を乱すおそれがあると認められるとき、その他住民の福祉を増進する目的に照らし適当でないと認められるとき。
- (2) 展示施設等及び駐車場並びに附属設備を損傷するおそれがあると認められるとき。
- (3) 集団的に又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織の利益になると認められるとき。
- (4) その他美術館の管理及び運営上支障があると認められるとき。

(展示施設等の利用期間)

第10条 展示施設等の利用期間は、引き続き7日を超えることはできない。ただし、指定管理者が必要と認めるときは、この限りでない。

(入館料の納付等)

第11条 美術館の展示する美術品等を観覧する者は、別表第一に定める入館料を納付しなければならない。

- 2 入館料は、知事が別に定める場合を除き、前納とする。
- 3 既納の入館料は、返還しない。

(利用料金の納付等)

第12条 展示施設等及び駐車場を利用する者は、指定管理者が別表第二及び別表第三に定める金額の範囲内で教育委員会の承認を受けて定める利用料金を納付しなければならない。

- 2 所蔵作品展に係る利用料金は、教育委員会が別に定める場合を除き、前納とする。
- 3 展示施設等及び駐車場に係る利用料金は、教育委員会が別に定める場合を除き、利用許可を受ける際に納付しなければならない。
- 4 既納の利用料金は、返還しない。ただし、利用許可を受けた者がその責めに帰することができない理由により利用できない場合その他教育委員会が別に定める場合には、指定管理者は、利用料金の全部又は一部を返還することができる。

(入館料の減免)

第13条 知事は、次の各号のいずれかに該当する者が特別展を観覧するときは、入館料を減免することができる。

- (1) 身体障害者手帳の交付を受けている者
 - (2) 戦傷病者手帳の交付を受けている者
 - (3) 療育手帳の交付を受けている者
 - (4) 精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者
 - (5) 六十五歳以上の者
 - (6) 県内の大学又はこれに準ずる学校に在学する外国人留学生
 - (7) 小学校、中学校、高等学校又はこれらに準ずる学校の校長が学校教育活動であることを証明した場合の小学校の児童、中学校若しくは高等学校の生徒又はこれらに準ずる者の引率者
 - (8) 祝日法第二条に規定するみどりの日又は文化の日に入館する者
 - (9) 教育委員会が単独で開催する所蔵作品展以外の展示（以下「特別展」という。）と併せて観覧する者
 - (10) その他知事が別に定める者
- 2 知事は、次の各号のいずれかに該当する者が特別展を観覧するときは、特別展に係る入館料を減免することができる。
- (1) 祝日法第二条に規定するこどもの日に入館する小学校の児童、中学校の生徒又はこれらに準ずる者
 - (2) 祝日法第二条に規定する文化の日に入館する者
 - (3) ひろしま教育の日を定める条例（平成十三年広島県条例第四十号）第三条に規定するひろしま教育ウィークに入館する小学校の児童、中学校若しくは高等学校の生徒又はこれらに準ずる者
 - (4) その他知事が別に定める者

(利用料金の減免)

第14条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、展示施設等の利用料金を減免することができる。

- (1) 教育委員会が、主催する事業のために展示施設等を利用するとき。
- (2) 前条第一項第一号から第四号までに掲げる者（以下「身体障害者等」という。）又は身体障害者等が主体となつて構成する団体が、美術活動として展示施設等を利用するとき。
- (3) 国又は地方公共団体が、身体障害者等の美術の振興を図る行事のために展示施設等を利用するとき。
- (4) 社会福祉事業を推進する団体が当該団体の設立の目的のために利用するとき。
- (5) 幼保連携型認定こども園又は幼稚園、小学校、中学校若しくはこれらに準ずる学校の校長（幼保連携型認定こども園及び幼稚園にあつては、園長）が学校教育活動であることを証明した場合において、当該幼保連携型認定こども園の幼児又は当該幼稚園の幼児、当該小学校の児童、当該中学校の生徒若しくはこれらに準ずる者が利用するとき。

(6) その他教育委員会が別に定める場合

2 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、駐車場の利用料金を減免することができる。

- (1) 教育委員会が、主催する事業のために駐車場を利用するとき。
- (2) 身体障害者等が、自ら車両を運転し、又は介護者の運転する車両に同乗して駐車場を利用するとき。

(利用料金の収入)

第15条 第12条第1項の規定により展示施設等及び駐車場を利用する者が納付する利用料金は、指定管理者の収入とする。

(利用許可の取消し等)

第16条 指定管理者は、利用許可を受けた者が次の各号のいずれかに該当するときは、利用許可の全部若しくは一部を取り消し、利用の方法を制限し、又は利用の停止を命じることができる。

- (1) 許可された利用目的以外に展示施設等を利用したとき。
- (2) 第九条各号のいずれかに該当するに至ったとき。
- (3) 偽りその他不正な手段により利用許可を受けたとき。
- (4) この条例若しくはこの条例に基づく教育委員会規則の規定又は第8条第2項の規定により付された条件に違反したとき。
- (5) 利用許可に基づく権利を譲渡し、又は他人に利用させたとき。

2 前項の規定により利用許可を取り消し、利用の方法を制限し、又は利用の停止を命じたことによつて、利用許可を受けた者に損失が生じることがあつても、県又は指定管理者は、これに対して補償する義務を負わない。

(遵守事項)

第17条 美術館においては、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 展示施設等及び駐車場その他の美術館の施設並びに附属設備をき損し、又は汚損しないこと。
- (2) 展示資料、展示設備等に触れないこと。
- (3) 許可を受けずに、展示資料の模写又は撮影をしないこと。
- (4) 館内においては、静粛にし、他人に迷惑を掛ける行為又は他人に嫌悪の情を催させる行為をしないこと。
- (5) 所定の場所以外の場所で喫煙し、又は飲食しないこと。
- (6) 指定管理者の指示に従うこと。
- (7) その他教育委員会が定める事項

(禁止行為)

第18条 美術館においては、次に掲げる行為をしてはならない。ただし、教育委員会の許可を受けた場合は、この限りでない。

- (1) 寄附の募集
- (2) 爆発物その他危険物等の持込み
- (3) 行商その他これに類する行為
- (4) 宣伝その他これに類する行為
- (5) 広告物等の掲示若しくは配布又は看板、立札類の設置

(入館の制限等)

第19条 教育委員会又は指定管理者は、前2条の規定に違反するおそれのある者又はこれらの規定に違反した者に対して、美術館への入館を拒否し、又は美術館からの退去を命じることができる。

(原状回復義務)

第20条 展示施設等の利用者は、その利用を終了したとき(利用許可を受けた者が第16条第1項の規定により利用許可を取り消されたときを含む。)は、直ちに利用場所を原状に復し、指定管理者の検査を受けなければならない。

(損害賠償義務)

第21条 展示施設等及び駐車場その他の美術館の施設、附属設備又は展示資料等をき損し、汚損し、又は滅失した者は、これによつて生じた損害を賠償しなければならない。

(委任規定)

第22条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

- 1 この条例は、昭和43年4月1日から施行する。
- 2 第5条第1項の規定にかかわらず、別表の通常の展示の場合に係る入館料は、この条例の施行の日後において知事はその徴収を開始すべき日を定めて公示するまでの間は、これを徴収しないものとする。

附 則(平成19年3月15日条例第21号抄)

(施行期日)

- 1 この条例は、規則で定める日から施行する。(平成20年1月規則第2号で、平成20年4月1日から施行)

(経過措置)

3 この条例の施行前にこの条例による改正前のそれぞれの条例(これに基づく規則その他の規程を含む。)の規定によってした処分、手続その他の行為であつて、この条例による改正後のそれぞれの条例(これに基づく規則その他の規程を含む。)中相当する規定があるものは、それぞれこれらの相当する規定によってした処分、手続その他の行為とみなす。

4 この条例の施行前にこの条例による改正前のそれぞれの条例(これに基づく規則その他の規程を含む。)の規定により利用の許可を受けている者に係る使用料については、なお従前の例による。

附 則(平成19年12月25日条例第56号)

この条例は、学校教育法等の一部を改正する法律(平成19年法律第96号)附則第1条本文に規定する政令で定める日から施行する。(定める日=平成19年12月26日)

附 則(平成22年6月28日条例第31号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成23年7月11日条例第31号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月26日条例第23号)

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成27年3月16日条例第三号)

この条例は、平成27年4月1日から施行する。

附 則(平成28年3月22日条例第7号)

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成28年10月12日条例第47号)

この条例は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(平成31年3月8日条例第5号抄)

(施行期日)

1 この条例は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定める日から施行する。

(1)~(3) 略

(4) 前3号に掲げる規定以外の規定 平成31年10月1日

別表第1(第12条関係)

1 所蔵作品展の利用料金の範囲

区 分	個 人	団体 (20人以上の場合とする。)	広島県縮景園との 共通券による場合
大学生及びこれに準ずる者	1人1回310円	1人1回250円	1人1回250円
その他15歳以上の者 (中学校又は高等学校の生徒 及びこれに準ずる者を除く。)	1人1回510円	1人1回410円	1人1回410円

2 特別展の場合

1人1回 2,100円以内で知事が定める額

別表第2(第12条関係)

展示施設等の利用料金の範囲

利用区分	施設区分	第1展示室	第2展示室	第3展示室	第4展示室	第5展示室	講堂
		1時間につき	1,790円以内	3,050円以内	3,050円以内	3,050円以内	3,250円以内
入場料有料の場合	1日につき	13,630円以内	24,320円以内	24,320円以内	24,320円以内	25,780円以内	
	1時間につき	950円以内	1,580円以内	1,580円以内	1,580円以内	1,680円以内	2,520円以内
入場料無料の場合	1日につき	6,820円以内	12,170円以内	12,170円以内	12,170円以内	12,900円以内	
	電気設備を利用する場合		実費を基準として教育委員会が定める範囲とする。				

備考

1 この表において「1日」とは、美術館の開館時間とする。

2 日曜日、土曜日及び祝日法に規定する休日における入場料有料の場合の利用料金の額は、指定管理者が定める額の2割を加算する。

3 展示物の搬入及び撤去に係る利用料金の額は、指定管理者が定める額に2分の1を乗じて得た額とする。

4 利用料金の額に10円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てるものとする。

別表第3（第12条関係）

駐車場の利用料金の範囲

駐車することができる自動車の範囲	単 位	利用料金の範囲
道路運送車両法（昭和26年法律第185号）第3条に規定する自動車のうち、普通自動車並びに2輪自動車以外の小型自動車及び軽自動車	1台につき 1時間まで 1時間を超える時間30分までごとに	420円以内 220円以内

広島県博物館協議会条例

（平成13年3月26日）
広島県条例第3号

（設 置）

第1条 広島県教育委員会（以下「教育委員会」という。）に、広島県博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、広島県立美術館、広島県立歴史民俗資料館、広島県立歴史博物館の運営に関し教育委員会の諮問に応じるとともに、教育委員会に対して意見を述べる機関とする。

（組 織）

第2条 協議会は、委員15人以内で組織する。

2 委員は、教育委員会が任命する。

（委員の任期）

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（会長及び副会長）

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会 議）

第5条 協議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が召集し、会長がその議長となる。

2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（庶 務）

第6条 協議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

（雑 則）

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

（施行期日）

1 この条例は、平成13年4月1日から施行する。

（広島県立美術館協議会条例の廃止）

2 広島県立美術館協議会条例（昭和43年広島県条例第38号）は、廃止する。

広島県立美術館管理運営規則

（昭和43年4月1日）
教育委員会規則第1号

最終改正 平成29年3月23日教育委員会規則第1号

（趣 旨）

第1条 この教育委員会規則は、広島県立美術館（以下「美術館」という。）の管理及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（指定管理者が行う業務）

第2条 広島県立美術館条例（昭和43年広島県条例第20号。以下「条例」という。）第5条第2項第1号の教育委員会規則で定める業務は、次に掲げる業務とする。

- 1) 美術館の利用促進に関すること。
- 2) 美術館の利用案内に関すること。
- 3) 県民の美術に関する学習活動の支援に関すること。

(開館時間等の周知)

第3条 条例第6条第3項又は第7条第2項の規定により、美術館の開館時間若しくは講堂若しくは駐車場の利用時間を変更し、又は美術館の全部若しくは一部を臨時に休館し、若しくは休館日に開館する場合は、あらかじめ、その旨を美術館に掲示する等周知のために必要な措置を講じなければならない。

(展示施設等の利用の申込み等)

第4条 美術館の展示施設及び講堂(以下「展示施設等」という。)を利用しようとする者は、展示施設等利用申込書を指定管理者に提出し、条例第8条第1項の許可(以下「利用許可」という。)を受けなければならない。

2 前項の規定による利用の申込みは、次に掲げる期間内にしなければならない。ただし、特別の事情があると指定管理者が認める場合は、この限りでない。

(1) 展示施設 利用開始日の1年前から1月前まで

(2) 講堂 利用開始日の4月前から7日前まで

(展示施設等利用許可書の交付)

第5条 指定管理者は、利用許可をしたときは、展示施設等利用許可書を申込者に交付するものとする。

2 展示施設等利用許可書は、展示施設等を利用する際必ず携帯し、係員の請求があるときは、これを提示しなければならない。

(駐車場の利用手続)

第6条 駐車場を利用しようとする者(以下「駐車場利用者」という。)は、自動車を入庫させる際、駐車券の発給を受けるものとする。この場合においては、当該発給を受けたときに利用許可を受けたものとみなす。

2 駐車場利用者が自動車を出庫させようとする際は、駐車時間に応じた利用料金を納付しなければならない。

(利用料金の周知)

第7条 指定管理者は、条例第12条第1項の規定により教育委員会の承認を受けて利用料金を定めたときは、美術館に掲示する等周知のために必要な措置を講じなければならない。

(利用料金の返還)

第8条 条例第12条第4項ただし書の規定により、指定管理者は、利用許可を受けた者がその責めに帰することができない理由により利用することができない場合は、当該利用料金の全額を返還する。

2 前項の規定により利用料金の返還を受けようとする者は、利用料金返還申請書に第五条第一項の展示施設等利用許可書を添えて、指定管理者に提出しなければならない。

(利用料金の減免)

第9条 条例第14条第1項第1号又は同条第2項第1号若しくは第2号に該当する場合は、利用料金(条例別表第2に規定する電気設備を利用する場合の利用料金を除く。以下本条において同じ。)を免除する。

2 条例第14条第1項第2号又は第3号に該当する場合は、利用料金の額の2分の1に相当する額を減額する。

3 条例第14条第1項第4号又は第5号に該当する場合は、利用料金の額の5分の1に相当する額を減額する。

4 前2項の規定により算定した減額後の利用料金の額に10円未満の端数が生じたときは、その端数を切り捨てるものとする。

(利用料金の減免の申請)

第10条 前条第1項の規定により利用料金の免除を受けようとする者のうち条例第14条第2項第2号に該当するものは、該当することを証する書類を指定管理者に提示しなければならない。

2 前条第2項又は第3項の規定により利用料金の減額を受けようとする者は、第4条第1項の展示施設等利用申込書の提出時に併せて利用料金減額申請書を指定管理者に提出し、その承認を受けなければならない。

(補 則)

第11条 この教育委員会規則に定めるもののほか、美術館の管理及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則(平成29年3月23日教育委員会規則第1号)抄

(施行期日)

1 この教育委員会規則は、平成29年4月1日から施行する。

(広島県美術展開催運営規則の廃止)

2 広島県美術展開催運営規則(昭和52年広島県教育委員会規則第2号)は、廃止する。

広島県立美術館美術品等収集基本方針

(昭和63年12月9日)

広島県立美術館の美術品等収集に関する基本方針を次のとおり定める。

1 本県ゆかりの作家の美術品等については、次項に準拠しつつ、各作家ごとの体系的なコレクションの形成につとめる。

2 次に掲げる美術品等の収集に主眼を置き、日本美術の特質を味わうことのできる体系的なコレクションの形成につとめる。

(1) 近・現代作家の特色ある美術作品

近代から現代にいたる絵画等の平面・立体造形作品のうち、時代の特徴と制作意図の明確な作品。

- (2) 近代の工芸作品
わが国工芸の特色を示す陶芸、染色、漆芸、金工等のうち、主として近代以降に制作された作品。
 - (3) 近代の彫塑作品
近代以降のわが国の彫塑界で特に重要と認められる作家の作品。
 - (4) その他の美術作品
上記(1)～(3)に掲げる美術作品のほか、美術館において収蔵するにふさわしいと認められる美術工芸作品。
 - (5) 美術資料
収蔵する美術品等に関する作家並びに美術作品を理解するうえで必要な日記、書簡、下絵等の美術資料等。
 - (6) 補助的関連資料
収集する美術品等に関する調査研究及び教育普及事業に必要な視聴覚教材、図書、複製品等の補助的関連資料
- 3 その他、美術館において所蔵するにふさわしい東洋・西洋の美術品等を収集する。

広島県立美術館美術品等特別収集基本方針

(平成3年3月8日 館長決裁)

- 1 本県ゆかりの作家の作品並びに本県にゆかりのある美術品等
 - (1) 本県ゆかりの作家の作品及び美術資料
 - (2) 本県ゆかりの作家に関連する系譜的作品
 - (3) 本県ゆかりの美術品等
- 2 近世から現代までの造形的に優れたわが国の美術作品及びこれらの作品を理解するために必要な外国作品
 - (1) 絵画作品
 - 1) 近世絵画の流れが理解できる作品のうち、主として花鳥画を主題とする作品及び近代日本画確立期の作品
 - 2) 油彩画等の受容と展開を示す明治・大正・昭和三代の代表的作家の作品
 - 3) 戦後における国際的評価の高い作家の作品
 - (2) 工芸作品
 - 1) 東洋的伝統を受け継ぐわが国の代表的作家又は様式作品
 - 2) わが国と関係の深いアジア各国の工芸作品
 - 3) 近代工芸確立期(1920年代)及び戦後昂揚期(1960年代)の作品
 - 4) 収蔵作品を理解するために必要な外国作品及び特に注目される現代の工芸作品
- 3 国際的視野から特色をもった作品
1920-1930年代の両大戦間を中心とする世界美術の多様性が理解できる作品
 - 1) 欧米作家等の作品
 - 2) 日本人作家の作品
- 4 近代以降の彫刻(立体)作品
 - (1) 主として戦後期に活躍した作家の作品
 - (2) “手で見る彫刻”作品
 - (3) 新館及び街区等、周囲の環境に即した作品

県立美術館特別収集重点方針

- 1 本県ゆかりの作家の作品など
近代以降の美術界に大きな足跡をのこした作家の作品を中心に収集し、その系譜的作品も併せて収集する。
- 2 日本及びアジアの工芸作品など
わが国とアジア各国の優れた工芸作品(陶磁、染色、漆芸など)を収集する。
- 3 1920—1930年代(両大戦間)の美術作品など
現代美術に先行する両大戦間美術の多様性を示す作品を世界と日本との関連で収集する。

広島県立美術館美術品等取扱要綱

(趣旨)

第1条 広島県立美術館(以下「美術館」という。)で取り扱う美術品及び美術資料の管理、寄託、寄附及び貸付けについては、広島県物品管理規則(昭和39年規則第33号。)に定めるもののほか、この要綱の定めるところによる。

(定義)

第2条 この要綱において「美術品等」とは、美術作品及び美術に関する資料をいう。

(管理)

第3条 美術館で管理する美術品等については、別表の美術品等分類表により区分するとともに、別記様式第1号による備品出納簿を備え付け、その出納及び保管の状況を記録管理しなければならない。

(寄託)

第4条 美術品等を、美術館に保管又は展示するために寄託しようとする者は、広島県立美術館長(以下「館長」という。)に別記様式第2号による美術品等寄託申請書を提出し、寄託の承認を受けなければならない。

2 館長は、前項の規定により寄託を承認した場合は、美術品等を寄託する者(以下「寄託者」という。)に対して別記様式第3号による受託証書を交付するものとする。

3 前項の規定により寄託を承認した美術品等(以下「寄託品」という。)の記録管理は、別記様式第4号による受託カードにより行うものとする。

(寄託期間)

第5条 寄託期間は3年とする。ただし、館長が特別の理由があると認めた場合は、寄託者の承諾を得て寄託期間を変更することができる。

(一時返還)

第6条 寄託者は、寄託品の一時返還を受けるときは、館長に別記様式第5号による寄託品一時返還願を提出しなければならない。

(返還の手続)

第7条 館長は、寄託者に寄託品を返還するとき、受託証書と引換えに返還するものとする。

2 寄託者の代理人が、寄託品の返還を受けようとするときは、館長に委任状その他これを証する書類を受託証書に添付して提出しなければならない。

(受託証書の記載事項変更)

第8条 寄託者は、受託証書の記載事項について、譲渡、相続その他の事情により変更があったときは、館長に記載事項の変更を証する書類を受託証書に添付して提出し、記載事項の書換えを受けなければならない。

(受託証書の再交付)

第9条 寄託者は、受託証書を破り、汚し、又は失ったときは、館長に別記様式第6号による受託証書再交付申請書を提出して、受託証書の再交付を受けなければならない。

(寄託品の保管)

第10条 館長は、寄託品を常に良好な状態で保管しなければならない。

(寄託品の修繕)

第11条 館長は、寄託品に修繕をする必要を認めたときは、寄託者に対して適正な指示を行うことができる。

(寄附)

第12条 美術品等を、美術館に保管又は展示するために寄附しようとする者は、館長に別記様式第7号による寄附申込書を提出しなければならない。

2 館長は、前項の規定により寄附申込書の提出があったときは、寄附を受けることについて適否を決定し、美術品等を寄附しようとする者に対して適否を通知するものとする。

(貸付け)

第13条 館長は、美術館の事業に支障を及ぼさないと認めるときは、美術品等を他の美術館又はこれに準ずる施設に無償で貸し付けることができる。

2 美術品等を、前項の規定により貸付けを受けようとする者は、館長に別記様式第8号による美術品等借受願又は別記様式第8号に準じた書面を提出しなければならない。ただし、貸付けを受けようとする美術品等が寄託品である場合は、寄託者の承諾書を美術品等借受願に添付するものとする。

3 館長は、第1項の規定により美術品等の貸し付けを決定したときは、貸付けを受けようとする者に対して貸し付けの通知をするものとする。

(借用書の提出)

第14条 前条第3項の規定により通知を受けた者は、館長に別記様式第9号による借用書又は別記様式第9号に準じた書面を提出しなければならない。

(貸付け期間)

第15条 貸付け期間は60日以内とする。ただし、館長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(貸付けの条件)

第16条 第13条第1項の規定により美術品等を貸し付ける場合の条件は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 貸付けを受けた者(以下「借用者」という。)は、貸し付けを受けた美術品等(以下「借用美術品等」という。)を転貸し、又は貸し付けにより生じた権利を担保に供し、若しくは譲渡してはならない。
- (2) 借用者は、借用美術品等を常に良好な状態で保管しなければならない。
- (3) 借用者は、借用美術品等を失い、又は傷付けたときは、直ちにその損害を賠償しなければならない。
- (4) 美術品等の貸付けに必要な経費は、借用者が負担するものとする。
- (5) 館長は、前各号に定めるもののほか、美術品等の貸し付けに必要な条件を付することができる。

(報告義務)

第17条 館長は、第12条第2項の規定により美術品等の寄附受納を決定した場合及び第13条第3項の規定により美術品等の貸付けを決定した場合は、速やかに広島県環境県民局長(以下「局長」という。)に報告しなければならない。

(補 則)

第18条 館長は、前各条に規定する事務のうち、重要及び異例若しくは疑義のある事項については、あらかじめ局長に報告し、局長は広島県教育委員会に協議をして、その承認を受けなければならない。

附 則

この要綱は、昭和58年7月1日から施行する。

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

広島県立美術館展示施設等運営要領

(平成8年7月24日 館長決裁)

この要領は、広島県立美術館管理運営規則(昭和43年4月1日教育委員会規則第1号)に基づき美術館の展示施設及び講堂の適正かつ効果的な運営を図るため、利用の形態及び許可の基準その他の必要な事項を定めるものとする。

1 利用形態

① 常設展示室(2階)

第1から第4展示室及び彫刻展示スペースは、所蔵作品による常設展示を行う。

② 企画展示室(3階)

北、東、西及び展示前室は、美術館が企画・主催し又は共催する展覧会事業に使用する。ただし、美術館が共催する展覧会は、国若しくは地方公共団体(その機関を含む。)又は公共性の高い機関が企画・主催する事業で、美術館が共催するにふさわしい、開催意義の高い事業に限る。

なお、これらの展覧会を実施しても、なお、空室が生じる場合は、「広島県教育委員会の共催・後援・協賛に関する基準について(昭和54年3月29日)」に基づき共催・後援に該当する展覧会に限り使用することができる。

③ 県民ギャラリー(地階)

条例第1条により、団体又は個人が美術に関する事業を目的として利用する場合に、これを許可する。

④ 講堂兼ハイビジョンギャラリー(地階)

通常はハイビジョンギャラリーとして入館者が自由に鑑賞できるように毎日一定時間使用する。また、団体又は個人が芸術に関する県民の知識及び教養の向上に資する目的で講演会などの催しのために利用する場合には、美術館が企画・主催する事業に支障のない範囲内でこれを許可する。

⑤ 図書館(1階)

美術に関する図書及び参考図書を公開し、利用者に提供する。また、室内にハイビジョン・データ・ブースを設置し、美術館の所蔵品に関するデータベースを提供して利用者の学習の便を図る。

⑥ 情報ギャラリー(1階)

ポスター、パンフレットなど、さまざまな広報媒体を掲示して、利用者に情報を提供するとともに、時機に応じて比較的小規模の企画展示を行う。また、一部にハイビジョン・ブースを設置し、美術館の所蔵品に関するオリジナル番組を提供して、利用者の作品理解の一助とする。

2 利用の申込み

県民ギャラリーの利用の申込みは、原則として年度を前・後期に分け、前期については、前年度の9月1日から9月30日まで、後期については、前年度の3月1日から3月31日までの間に受け付けるものとする。

講堂の利用の申込みは、利用日の2ヶ月前から随時行うものとする。

3 利用の期間及び回数

県民ギャラリーの利用期間は原則2週間をこえないこととし、利用回数は同一の団体又は個人につき原則年1回とする。

X 名 簿

職 員

館 長	千 足 伸 行
副 館 長	沖 見 広 徳
加江外ネシ	前 田 恭 正
総括企画監	篠 原 達 児
総務課長	片 山 泰 英
事業調整員	山 中 智 幸
事業調整員	三 浦 緑
事業調整員	藤 井 美也子
学芸課長	福 田 浩 子
主任学芸員	角 田 新
〃	藤 崎 綾
〃	神 内 有 理
〃	山 下 寿 水
学 芸 員	隅 川 明 宏
〃	岡 地 智 子
〃	森 万由子

令和2年度

広島県立美術館年報

令和3年12月2日発行

発行者 **広島県立美術館**
〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22
電話 (082) 221-6246

印刷所 株式会社 インパルスコーポレーション
〒731-0141 広島市安佐南区相田1丁目16-27
電話 (082) 878-6000

(人名については、敬称略)